

新小山市立博物館整備基本計画

令和7(2025)年3月

小山市・小山市教育委員会

第1章 基本計画の背景と目的.....	1
1. 基本計画策定の背景と目的.....	2
(1) 背景	
(2) 基本計画策定の目的	
(3) 市民および有識者の意見をふまえた基本計画策定の考え方	
2. 関連する諸計画及び社会動向	6
(1) 上位計画	
(2) 関連計画	
(3) 関連する社会動向	
3. 基本計画策定の基本的方向性.....	7
(1) 基本構想における新博物館整備の方向性	
(2) 市民アンケートによる新博物館整備の方向性	
(3) 新博物館における「つながり」のあり方	
第2章 活動計画	13
1. 基本方針	14
(1) 活動計画の考え方	
(2) 活動の方向性	
2. 収集保存活動	15
(1) 活動の方向性と想定する主な取組	
(2) 取組の考え方と検討ステップ	
3. 調査研究活動	16
(1) 活動の方向性と想定する主な取組	
(2) 取組の考え方と検討ステップ	
4. 展示発信活動	18
(1) 活動の方向性と想定する主な取組	
(2) 取組の考え方と検討ステップ	
5. 教育普及活動	20
(1) 活動の方向性と想定する主な取組	
(2) 取組の考え方と検討ステップ	
6. 他機関連携活動	22
(1) 活動の方向性と想定する主な取組	
(2) 取組の考え方と検討ステップ	
7. 体験交流活動	23
(1) 活動の方向性と想定する主な取組	
(2) 取組の考え方と検討ステップ	

目 次

第3章 展示計画.....	25
1. 基本方針と展示テーマ	26
(1) 展示のテーマと方針	
(2) 目指す展示の姿	
(3) 展示体験の考え方	
2. 展示解説の考え方	28
(1) 展示解説	
3. 展示構成	30
(1) エントランス	
(2) 常設展示室	
(3) 企画展示室	
4. 情報発信	37
(1) 「OYAMA観光マップ」	
(2) 「みんなのライブラリー」	
(3) ホームページの整備	
第4章 施設計画.....	39
1. 基本方針	40
(1) 建築整備の基本方針	
(2) 建設予定地の条件整理	
2. 求められる諸室機能と構成	43
(1) 施設与件の整理	
(2) 新博物館・伝承館、館外収蔵庫の諸室構成	
(3) 各諸室のボリューム	
第5章 管理運営計画	51
1. 基本方針	52
(1) 管理運営の基本方針	
(2) 開館形態	
(3) 利用料金	
(4) 主な業務	
(5) 組織体制	
(6) 管理運営方式	
第6章 開館に向けて.....	55
1. 整備スケジュール	56

別添資料	57
1. 新小山市立博物館整備検討懇話会 委員名簿.....	58
2. 新小山市立博物館整備についてのアンケート 設問一覧.....	59
3. 新小山市立博物館整備についてのアンケート 結果概要.....	62
(1) 回答者属性	
(2) 集計結果	

第1章 基本計画の背景と目的

1. 基本計画策定の背景と目的

(1) 背景

小山市は、古くから河川と街道による交通の要衝として発展してきた北関東の拠点都市であり、豊かな自然と都市環境の調和、多彩で豊富な歴史・文化資源を特徴としています。

小山市立博物館は、小山市の歴史が培った郷土資料の収集保存・展示を通して市民文化の創造へ寄与することを目的として、昭和58(1983)年に開館しました。以来40年以上に渡り、郷土の歴史・文化の拠点としての役割を担ってきました。現博物館が積み重ねてきた小山に関する企画展や市民向け講座、博学連携事業に力をいれた運営は、未来に引き継ぐべき大切な資産となっています。

しかしながら開館から年月が経過し、施設の老朽化などの課題が顕在化するとともに、小山市のまちづくりにおける役割や社会動向の変化への対応が求められるようになりました。

このような状況を踏まえ、小山市ではこれからの小山市に必要な新たな市立博物館の基本的な考え方を整理・検討することを目的として、令和6(2024)年5月に『新小山市立博物館整備基本構想』(以下、基本構想)を策定し、新博物館の整備に向けた検討を進めています。

『新小山市立博物館整備基本計画』(以下、基本計画)は、基本構想において示された新博物館の目指すべき姿の実現に向けて、新博物館の活動、展示及び施設、管理運営の具体的な方向性と取組について検討、計画するものです。

なお、本基本計画では、現在の小山市立博物館を「現博物館」、これから新しく整備する小山市立博物館を「新博物館」としています。

■現博物館の概要

【設置目的(開館時)】

小山市を中心とする郷土資料(考古、歴史、民俗その他)を収集、保管、展示して、教育的配慮のもとに、市民一般の利用に供し、もって市民文化の向上発展に寄与する

「小山市立博物館条例 昭和57年3月23日」より

【事業】

- 資料の収集・整理・保管
- 調査・研究
- 資料の展示
- 教育普及及び情報サービス

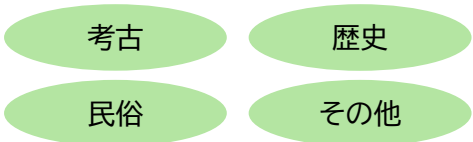
【展示】

－ 主題 －

小山の文化のあゆみ

小山市の現在までの姿を歴史的に解明する

－ 展示部門 －



【課題】

施設の老朽化、収蔵スペースの不足、設備の更新

社会動向やニーズの変化への対応

文化財の収集方針、保存計画の明確化

これまでの調査研究によって得られた成果を取り入れた新たな展示

(2) 基本計画策定の目的

基本構想において示された新博物館の目指すべき姿を踏まえ、新博物館における活動、展示、施設、管理運営の方向性と取組、具体的展開の考え方とイメージを検討し、基本計画として策定します。

(3) 市民および有識者の意見をふまえた基本計画策定の考え方

基本計画の策定にあたっては、「新小山市立博物館整備検討懇話会」を設置し、具体的な計画内容についての検討を行うとともに、市民アンケートによる市民ニーズの反映を行いました。

ア 新小山市立博物館整備検討懇話会(以下、懇話会)

歴史・考古、民俗、美術、自然および文化観光分野の学識経験者、小山市議会議員、市内関係団体の代表者からなる懇話会を設置し、新博物館についての検討を行いました。

懇話会は3回実施しました。各回の位置づけ、概要は次のとおりです。

■懇話会実施概要

第1回	第2回	第3回
令和6(2024)年7月22日	令和6(2024)年10月17日	令和7(2025)年1月29日
これまでの検討経過を共有、基本計画の骨子を考える	ミュージアムの具体像(基本計画素案)を考える	ミュージアムの全体像を整理基本計画(案)を考える
基本構想にて検討されてきたことと、基本計画にて検討することについて関係者全員で認識を共有。基本計画の核となる活動計画・展示計画を中心に検討を行い、基本計画の骨子を議論。	事業計画、展示計画、施設計画、管理運営計画の具体像(基本計画素案)を事務局より提示。基本計画の全体像を検討。	市民アンケートの分析結果と、これまでの検討を踏まえて基本計画を最終調整。事務局より提示した基本計画(案)をもとに全体的な調整事項について検討。基本計画書の記載内容を確認。

イ 市民アンケート

新博物館が市民にとって親しみやすく、活用しやすい施設となる基本計画策定を目的として、市民アンケートを実施し新博物館に対するご意見を幅広く収集しました。

■市民アンケート実施概要

(ア) 調査目的

- ・ より市民が利用しやすい施設の検討を進めるため、現博物館の利用状況や、新博物館に求められる市民ニーズの把握

(イ) 調査対象

- ・ 小山市民、市内に通勤・通学されている方、小山市立博物館の利用者

(ウ) 回答者数

- ・ 回答者総数 692
内、市内居住者 607(87.7%) 市外居住者 84(12.1%) 居住地無回答1

- ・ 回答者属性別の構成は表の通り

【年齢別】

全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	答えない
692	8	56	124	123	143	88	145	5
100.0%	1.2%	8.1%	17.9%	17.8%	20.7%	12.7%	21.0%	0.7%

【性別】

全体	男性	女性	その他	答えない	無回答
692	412	264	0	13	3
100.0%	59.5%	38.2%	0.0%	1.9%	0.4%

【職業別】

全体	中学生・高校生	大学生・大学院生・専門学校生	農林漁業・自営業・フリーランス	会社員・団体職員・公務員(役員・パート・臨時・派遣含む)	専業主婦・主夫	無職(定年後含む)	その他	無回答
692	2	6	30	470	36	130	18	0
100.0%	0.3%	0.9%	4.3%	67.9%	5.2%	18.8%	2.6%	0.0%

【現博物館来訪経験】

全体	ある	ない	無回答
692	416	270	6
100.0%	60.1%	39.0%	0.9%

(工)調査期間

- ・ 令和6(2024)年8月27日(火)～令和6(2024)年9月27日(金) (32日間)

(オ)調査方法

- ・ 以下の3つの方法により実施
 - WEBフォーム
 - 無作為抽出した市民へのアンケート送付
 - 小山市立博物館にて紙面アンケート実施

(カ)調査項目

- 属性(年齢、性別、職業、居住地)
- 小山市の文化資源に対する認知度、来訪経験
- 現博物館の利用経験、回数・頻度、同行者、交通手段、来訪目的
- 現博物館の展示・活動内容の重要度
- 現博物館を利用していない理由
- 新博物館で重要な役割、知りたい情報、見たい展示
- 新博物館でやってみたい活動
- 新博物館にあったらよいと思う場所・施設

■アンケート周知ポスター

OYAMA CITY MUSEUM



あなたが訪れたい
博物館をおしえて
ください

小山市では、新しい市立博物館の
整備計画をすすめています。
あなたが行ってみたい博物館は、
どんな博物館ですか？
あなたの声をきかせてください。




新小山市立博物館整備に関するアンケート

期 間	2024年8月27日(火)～2024年9月27日(金)
所要時間	5分程度
回答方法	・WEB回答 ・紙面回答（博物館もしくは市役所文化振興課窓口）

アンケートの回答はこちらから！→

問い合わせ先：小山市教育委員会文化振興課（本庁舎5階）

☎ 0285-22-9659



2. 関連する諸計画及び社会動向

(1) 上位計画

新博物館には、「田園環境都市おやま」を未来につなぐまちづくりに向けて、小山市の多彩な資源と人々をつなぐ場としての役割が求められています。

『第8次小山市総合計画』 令和3(2021)年3月

「市民との対話と連携・協働による「田園環境都市おやま」を未来につなぐ 持続可能なまちづくり」を基本理念としたまちづくりを推進。

『小山市都市と緑のマスタープラン』 令和6(2024)年3月

思川流域に「思川の水と緑と歴史のネットワーク」を設定し、周辺の公園や緑地空間、歴史文化拠点等、思川沿いの地域資源の活用を図ることで、水と緑と歴史のネットワークを形成。

(2) 関連計画

新博物館には、小山市のさまざまな人々や施設、取組とつながりながら、地域の課題解決に貢献し、未来を育む場としての役割が求められています。

『改訂版 生物多様性おやま戦略～たくさんの生命(いのち)輝くまちおやま～』

令和6(2024)年2月

「自然と生きる人づくり」のための施策として、「地域資源を活用した生物多様性に関する教育活動」、「あらゆる世代への生物多様性に関する学習・実践」を推進。

『小山市文化財保存活用地域計画』 令和5(2023)年7月

多様な主体と文化財、施設が連携・協力する「おやま歴史文化ネットワーク」の構築を推進。歴史文化の保存・活用に取り組む多様な主体をつなぐ役割に期待。

『間々田のじゃがまいた伝承館整備基本計画』 令和5(2023)年5月

「間々田のじゃがまいた」の保存継承に取組み、文化的価値を広く発信。

(3) 関連する社会動向

博物館には社会教育施設としての役割に加えて、地域における観光振興や社会課題の解決などに対して、地域の多様な主体と連携しながら取組んでいく拠点としての役割が求められるようになっていきます。

『文化芸術基本法(文化芸術振興基本法の一部を改正する法律)』 平成29(2017)年

観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他関連分野における施策を文化芸術施策の範囲として取り込む。文化芸術推進基本計画において博物館等に地域の観光などの拠点、社会的課題解決の場としての役割が求められている。

『博物館法』の改正 令和4(2022)年4月

他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による地域活力向上への寄与が努力義務化。地域の多様な主体との連携による地域の課題解決と活力向上への寄与が求められる。

3. 基本計画策定の基本的方向性

(1) 基本構想における新博物館整備の方向性

ア 新博物館の目指すべき姿

ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、 未来へのつながりを育む

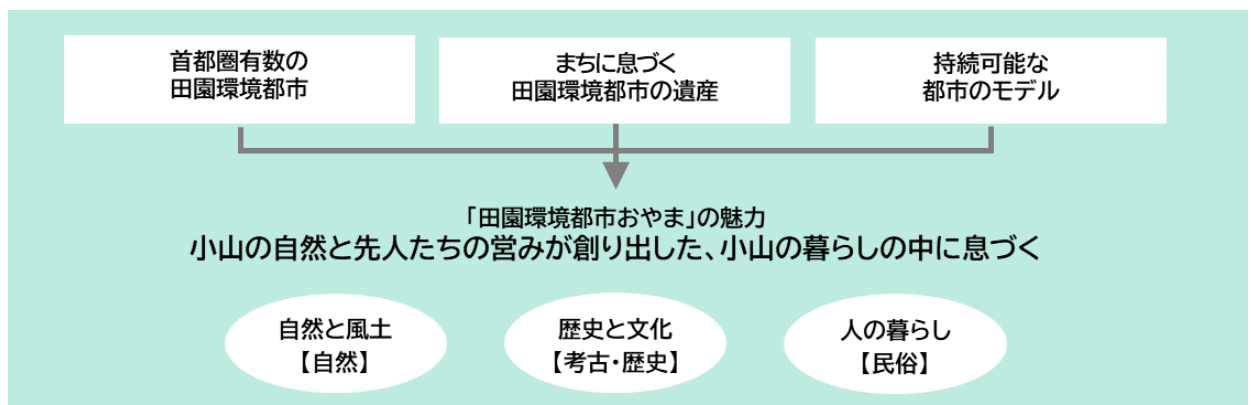
- ・新博物館では、小山市とその周辺の郷土資料の収集保存、調査研究、教育の場としての現博物館の役割を継承・強化し、「田園環境都市おやま」を創った、人と自然、人と人、人と文化の多様な「つながり」を再発見し、郷土の誇りとして継承していきます。
- ・新博物館は、未来に向けた多彩な「つながり」を育む「拠点(ハブ)」として、これからの持続可能で活力と魅力にあふれた「田園環境都市おやま」のまちづくりに貢献することができるよう、従来の歴史博物館から、自然も取り扱う総合博物館へと生まれ変わります。

■つながりとは

- 川と道がつくる東西南北のつながり
- 民俗文化を受け継ぐ人々のつながり
- 資料や情報と市民のつながり
- 新博物館と市内各地のつながり
- 市民と観光客のつながり
- 世代を超えたつながり
- 市民、民間企業、行政の枠を超えたつながり
- 過去から現在、未来へのつながり

■「田園環境都市おやま」の構成要素

「田園環境都市おやま」の魅力は、小山の自然と先人たちの営みが創り出した、小山の暮らしの中に息づく“自然と風土、歴史と文化、人の暮らし”から生まれています。

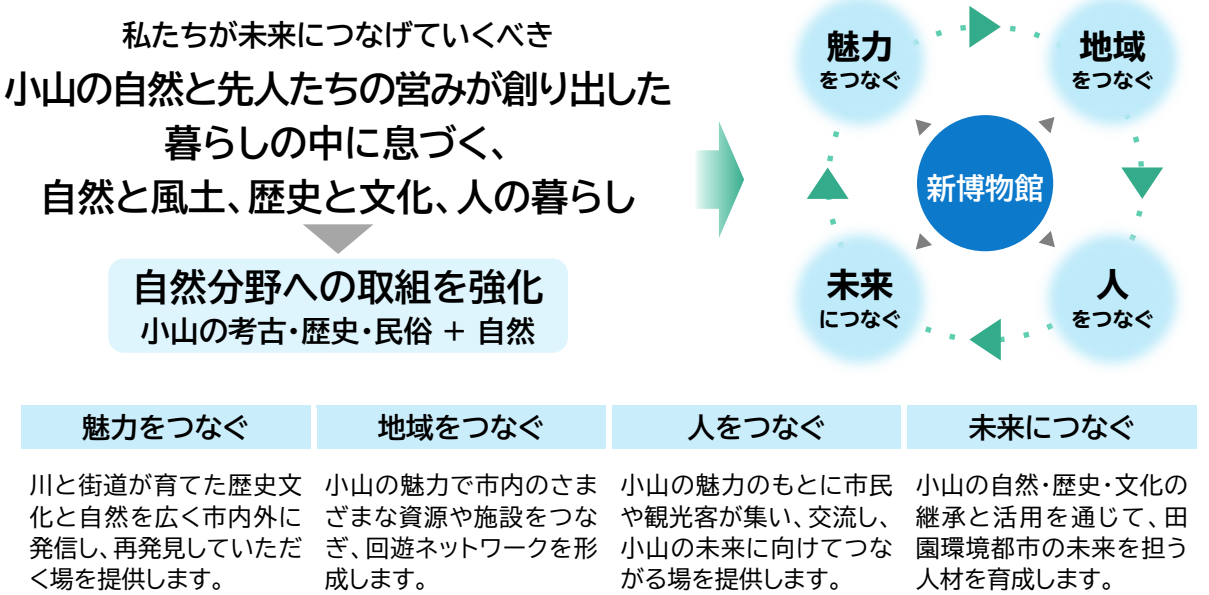


イ 小山市における新博物館の役割

4つの「つなぐ」機能の充実・強化を図り、
つなぐ“拠点(ハブ)”の役割を発揮します

「田園環境都市おやま」の魅力を育んだ、小山の自然と風土、歴史と文化、人の暮らしを未来に受け継ぐ博物館として、これまでの考古・歴史・民俗に加え、自然分野を取り上げます。さらに、4つのつなぐ機能の充実・強化を図ることにより、“ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、未来へのつながりを育む”博物館を実現していきます。

■つなぐ“拠点(ハブ)”としての新博物館の考え方



ウ 新博物館における活動の対象層と働きかけの考え方

市内外の幅広い人々に働きかけ、「田園環境都市おやま」の魅力を未来に受け継いでいきます。

対象	子どもたち	興味関心層 市外からの観光客層	周辺住民	博物館活動協力層
働きかけの考え方	● 地域への深い興味を喚起 ● ふるさとへの誇りを醸成	● 市内外に向けて小山の魅力を広く発信 ● 市民・観光客の興味関心の喚起と誘引	● 市民が日常的に訪れる環境を整備 ● 市民による博物館の活用の気運の向上	● 継続的なユーザーの活動や、自ら発信し伝える活動への気運を向上
具体的展開の方向性	● 学校教育と文化財をつなげる活動に力を入れ、探求心の醸成や学びへの興味を促進する。 ● 講座開催や学校教育との連携で、学芸員の活動や文化財等と子どもたちとの「つながり」を生み、未来の担い手として支援する。	● 未来に向けた多彩な「つながり」を育む“ハブ”として、市内外の人々に分かりやすい展示を行い、市内と市外を結ぶ交流の拠点とする。	● 市民が集いやすく、使いやすい博物館の環境を整備。 ● 博物館の活動や小山の魅力を積極的に発信し、博物館を市民の交流の場として開放する。	● 継続的なユーザーや博物館活動協力層が市の文化を深く学び、魅力を広める活動を積極的に支援し、活動場所や活躍の機会を提供する。

(2) 市民アンケートによる新博物館整備の方向性

市民アンケートの結果から、基本計画に反映する新博物館整備に求められる方向性を整理します。

※市民アンケート集計結果の概要は別添資料参照

ア 新博物館が果たすべき役割について

(ア) 博物館の基盤となる「収集保存」「調査研究」及び「展示発信」の重要性

新博物館の重要な役割については、「収集保存」と「展示発信」の回答が最も多く、次いで「調査研究」「教育普及」となっています。この傾向は、現博物館に来訪経験のある回答者だけでなく、現博物館に来訪したことがない回答者も同様となっています。

博物館の利用経験に関わらず、幅広い市民が博物館活動の基盤となる「収集保存」「調査研究」「展示発信」及び「教育普及」の役割を重視しています。

(イ) 身近な歴史文化や自然を「つなぐ活動の場」としての新博物館への期待

新博物館で知りたい情報については、回答者全体では「小山の歴史」が最も多く、次いで「小山の自然と環境」「小山の民俗文化」となっていますが、現博物館来訪経験のない回答者や若年層では「まち歩きルートや見どころ」の回答比率が比較的高くなっており、現在の小山市にある身近な歴史・文化を再発見できる情報への関心が伺えます。また、新博物館でやってみたい活動については、20～30代では「小山の自然環境を観察し、守る活動」、40～50代では「小山の歴史・文化スポットをつなぐ活動」などとなっており、地域の文化資源を守り、発信する活動への積極的な参加意欲が伺えます。

身近な歴史文化や自然に対する幅広い市民の関心、積極的に地域をつなぎ、守る活動への若年層を含めた参加意欲の高さが伺えます。

(ウ) 様々な市民が気軽に立ち寄れる施設

「ゆっくり見学した後、思索したり関係書籍を閲覧することができるカフェや飲食できる場所がほしい」「博物館で一日を過ごすことができる、滞在できる博物館にしてほしい」「ショップの他に、学習する場所、遊べる場所があると良い」「多くの市民が何度も利用したくなる施設を希望」といった意見がありました。

様々な市民が気軽に立ち寄れる多機能多目的な施設が求められています。

イ 重視すべき取組について

(ア) 市民への積極的な情報発信と「つながり」を巡る「きっかけ」づくり

現博物館を利用していない理由では、「小山市立博物館を知らない」「どんな展示があるかわからない」という情報不足に関する回答比率がすべての属性で高くなっています。

また、小山市の文化資源に対する認知度と来訪経験では、須賀神社、渡良瀬遊水地、祇園城跡／城山公園はともに高いものの、その他の文化資源については、認知度が40～60%あっても来訪経験はその半分程度となっています。

博物館利用を促進する上では、積極的な情報発信とともに、「知ってはいるが、行ったことがない」人に働きかけ、市内の文化資源を巡る「きっかけ」をつくることが課題となっています。

ウ 展示発信のあり方について

(ア) 「五感で体験できる展示」や「楽しく体験しながら学べる要素」の強化

現博物館の展示の重要度では、「小山の歴史の展示」「コレクションの展示」とする回答が多いものの、20～30代では「見て、さわって感じる体験コーナー」の回答比率も比較的高くなっています。また、活動の重要度では、「楽しく体験しながら活動できるイベントや講座」が最も多くなっています。

新博物館で見たい展示では、「歴史の資料の展示」が最も多くなっていますが、30～40代や現博物館に来訪経験のない回答者では「五感で体験できる展示」の回答比率も高くなっています。

歴史に関する資料展示の充実とともに、「五感で体験できる展示」や「楽しく体験しながら学べる」要素の強化を図ることで生涯学習にもつなげていくことが重要と考えられます。

(イ) 「子ども」を対象とした展示や施設へのニーズ

新博物館で見たい展示に関する問では、「子どもたちが遊びながら学べる展示」の回答も多くなっています。また、新博物館にあったらよいと思う場所・施設では、「子どもと遊べる場所」の回答が最も多くなっています。

「子ども」を対象とした展示や施設へのニーズの高さが伺えます。

エ 地域との連携について

(ア) 学校教育との連携に対する市民の期待の高さ

新博物館で重要な役割として、20～30代では「教育普及」、40代では「小・中学校教育の支援」の回答比率が比較的高くなっています。また、現博物館の重要な活動として「学校団体の受入れや学校教育の支援」を上げる回答が多くなっています。

市民の学校教育と連携した博物館活動への期待の高さが伺えます。

(3) 新博物館における「つながり」のあり方

基本構想及び市民アンケートによる新博物館整備の方向性を踏まえ、「ふるさと小山のつながり」を受け継ぎ、未来へのつながりを育む新博物館としての基本計画に求められる方向性を整理します。

ア 活動計画のあり方

基盤となる活動の強化、小山の「過去・現在の再発見」と「未来へのつながり」を育む活動を推進

- ・ 小山市の文化資源を未来につなぐため、博物館活動の基盤となる収集保存、調査研究、展示発信の充実を図ります。
- ・ 「おやま歴史文化ネットワーク」構築の中核施設として間々田の地から小山市全体の文化施設へつなぐ取組を推進します。
- ・ 学校教育や他機関との連携を図るとともに、市民が現在も小山に伝わる身近な文化資源を再発見し、つなぎ、守る活動の場を提供します。

イ 展示計画のあり方

市民や観光客に、体験を通じて小山の「つながり」に気づき、見つけ、広げていく場を提供

- ・ 小山の魅力として、小山の自然と風土、歴史と文化、人の暮らしのつながりを発信します。
- ・ 小山の多様な「つながり」に気づき、見つけてもらうために五感で体験できる展示を導入し、楽しく学べる場を提供します。
- ・ 来館者が自分と小山との「つながり」を発見し、自らも発信者となる「つながり」の体験を提供します。

- ・ エントランス空間なども含めて展示発信の場と捉えたストーリー性のある体験を提供します。
- ・ 市民や観光客が小山の「つながり」を一望し、交流を通じて「つながる」場を提供するとともに、まちへと誘うための情報発信や、一人ひとりの主体的な学びを支援する機能の充実を図り、市内外の人々がまちや文化財とつながっていく「きっかけ」を提供します。

ウ 施設計画のあり方

人が「つながり」未来に「つながる」場にふさわしい、誰もが使いやすく、快適な施設づくり

- ・ 小山市の文化財を保存し、未来につなぐための収集保存機能の整備と適切な規模の確保を図ります。
- ・ 交通アクセス性の向上、ユニバーサルデザインの導入など、市民誰もが使いやすく、快適な施設づくりに努めます。
- ・ 様々な世代の方が気軽に立ち寄り、飲物を飲みながら談笑したり、学習するなど多目的に過ごせる施設とします。
- ・ キッズスペースや乳室など、子ども及び子育て世代が気軽に利用できる施設を目指します。
- ・ 管理者や運営職員にとって使いやすく、働きやすい施設計画とします。

エ 運営計画のあり方

小山市の自然と歴史文化をつなぐ総合博物館にふさわしい体制の整備

- ・ 市民をはじめ利用者が気軽に利用できるよう施設運営、サービスの向上の維持に努めます。
- ・ 新たに博物館活動の対象となる自然分野に対応した体制に則した人員の充実を図ります。
- ・ 他機関連携や体験交流など、未来の「つながり」を育む活動に対応した人員及び体制を整備します。

第2章 活動計画

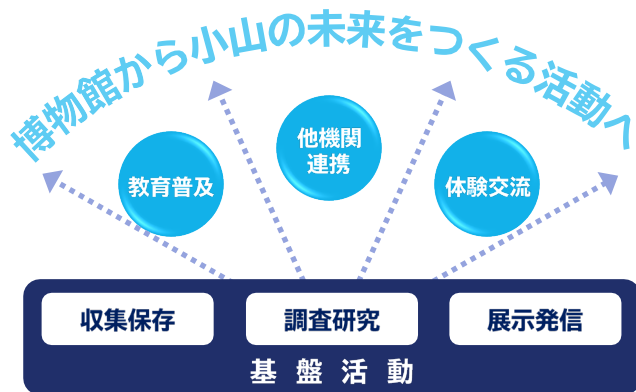
1. 基本方針

(1) 活動計画の考え方

博物館活動の基盤となる収集保存・調査研究・展示発信の
さらなる充実を図り、「田園環境都市おやま」の魅力で
人、地域、未来をつないでいきます

新博物館における活動は、博物館活動の基盤となる「収集保存」「調査研究」「展示発信」と、「田園環境都市おやま」の魅力を発信し、人、地域、小山の未来をつないでいく「教育普及」「他機関連携」及び「体験交流」で構成します。

新博物館では、現博物館のふるさと小山に関する「収集保存」「調査研究」「展示発信」の実績と成果を継承するとともに、さらなる充実を図り、博物館活動の基盤を強化します。そのうえで、教育普及活動、他機関連携活動、体験交流活動を強化し、「ふるさと小山のつながり」を受け継ぎ、未来のつながりを育む「拠点(ハブ)」としての博物館の実現を図ります。



(2) 活動の方向性

新博物館における活動の方向性を、それぞれの位置づけに基づき次のように設定します。

位置づけ	活動	方向性
基盤活動	収集保存活動	小山市を語る上で欠かせない考古、歴史、民俗、自然の史資料の収集保存を行う
	調査研究活動	収集した史資料の調査研究およびデジタル化
	展示発信活動	収集、調査研究で得られた成果を展示により発信
未来のつながりを育む活動	教育普及活動	郷土愛を育み、市民の知的好奇心を喚起する活動を展開
	他機関連携活動	小山市内の文化施設を中心に、連携をはかり、「小山市文化財保存活用地域計画」のもと「おやま歴史文化ネットワーク」の構築にむけて、中核施設として取組む
	体験交流活動	市民が考古、歴史、民俗、自然を活用した各種活動を行うための場や、そのために必要な学術的知識等のサポートを行い、より活発で専門性の高い市民活動の展開を促す

2. 収集保存活動

(1) 活動の方向性と想定する主な取組

小山市を語る上で欠かせない考古、歴史、民俗、自然の史資料の収集保存を行うことを活動の方向性として、次のような取組を推進します。

■想定する主な取組

- 収集、保存活動の推進と収蔵スペース及び収蔵環境の整備
- 小山市の考古、歴史、民俗、自然に関する史資料の収集、保存
- 史資料を適切に活用するために必要な収蔵スペースと環境の整備
- 史資料を活用しやすくするための収蔵分類等の見直し
- 史資料の収集保存方針の策定 など

(2) 取組の考え方と検討ステップ

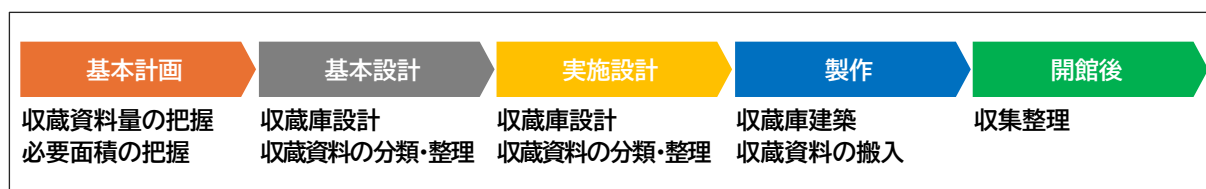
ア 収集、保存活動の推進と収蔵スペース及び収蔵環境の整備

現在分散して保存されている史資料の収蔵先を再検討しており、新博物館に用意する収蔵庫の他に、館外収蔵庫の整備も含め、史資料の適切な保存場所を選定します。

また、効率的な収蔵を行うために、収蔵分類等の検討を行う必要があります。史資料の収蔵にあたっては、収蔵分類に基づき、材質、出し入れの頻度等様々な条件を勘案の上、最も適切な収蔵管理を検討します。

現在、上記作業を開館までに実施するために、収蔵資料把握のための調査を進めています。

■検討ステップ



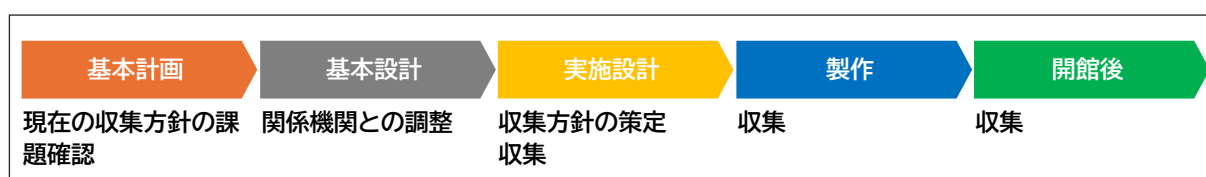
イ 文化財の収集保存方針の策定

新博物館では自然分野が追加されることから、自然分野の収集方針を新たに策定する必要があります。また、考古分野についても、開館以来収集方針が見直されておらず、現方針では博物館内にすべての収集対象資料を収蔵することができなくなっているという課題があります。

そのため、既存の収集方針の見直しを行い、新設される展示分野や、新たに検討する展示構成に対して必要な史資料を収集していくことで、博物館活動のさらなる充実化を目指します。

展示製作時には新たな収集方針における収集が始まっている必要があるため、設計の段階で収集方針の見直し、策定をおこないます。

■検討ステップ



3. 調査研究活動

(1) 活動の方向性と想定する主な取組

収集した史資料の調査研究およびデジタル化の方向性として、次のような取組を推進します。

■想定する主な取組

- 収集した史資料の学芸員による体系的な調査研究の実施
- 収集した史資料のデジタル化、データベースの整備、オープンデータ化、公開
- 市民協働による既存標本の同定作業、新規標本の作製作業の実施 など

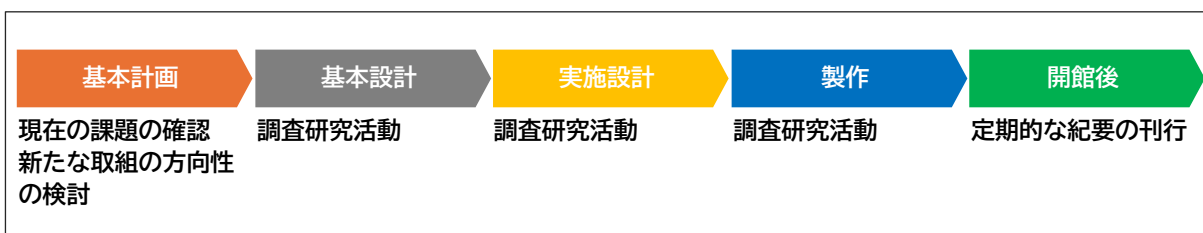
(2) 取組の考え方と検討ステップ

ア 収集した史資料の学芸員による体系的な調査研究の実施

これまでの蓄積、活動を基盤として、さらなる研究の進展に向けた取組を実施します。さらに、地域課題の解決に向けた研究を行うなど、調査研究の成果を市民に還元するための取組を検討します。

現在、調査研究の発表の場が企画展のみとなっていることから、今後は紀要の定期的な発行や講演会等のイベントの実施を進めます。

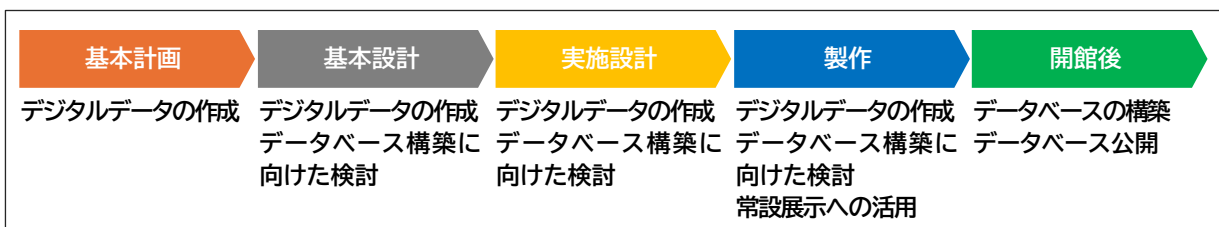
■検討ステップ



イ 収集した史資料のデジタル化、データベースの整備、オープンデータ化、公開

博物館法で新たに博物館事業の一つとして位置づけられた史資料のデジタル化およびその公開に向けて、データベースの整備を進めていきます。現在、歴史分野の史資料を中心にデジタル化はすでに着手しており、データが蓄積されています。これらのデジタルデータは新博物館の常設展示の製作においても活用します。

■検討ステップ

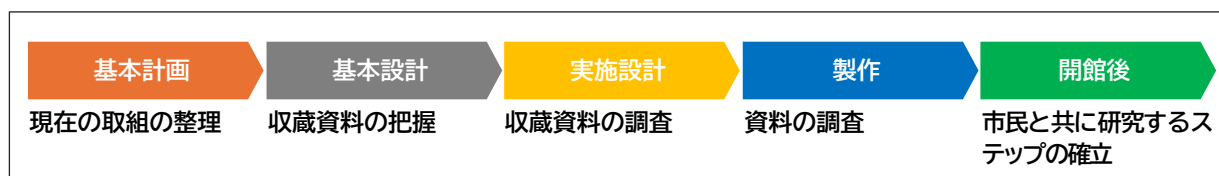


ウ 市民協働による既存標本の同定作業、新規標本の作製作業の実施

開館後に調査研究作業の一部を市民とともに実施していく仕組みづくりをめざします。

自然分野については学芸員が不在の為、収蔵資料の詳細が把握できていません。今後担当学芸員による収蔵資料の把握、収蔵資料の調査を進めたのち、市民と共に研究をするためのプログラムの内容や、実現のためのステップを検討、確立していきます。

■検討ステップ



4. 展示発信活動

(1) 活動の方向性と想定する主な取組

収集、調査研究した成果を展示にて発信する活動の方向性として、次のような取組を推進します。

■想定する主な取組

- 小山市の特徴や魅力を考古、歴史、民俗、自然の分野からわかりやすく伝える常設展示の整備
- 企画展示の実施と関連情報の発信
- 年間の学校教育プログラムに合わせた展示プログラムの開発、運用
- ホームページやSNS等を活用した情報発信 など

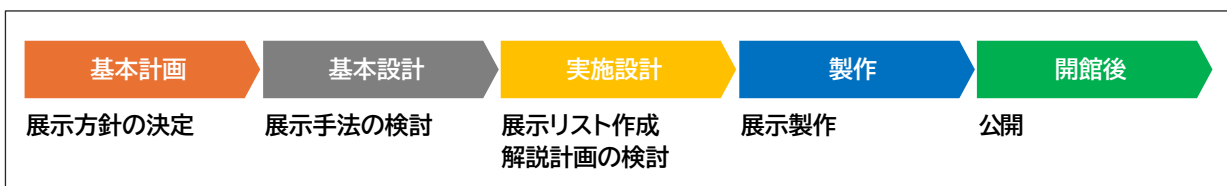
(2) 取組の考え方と検討ステップ

ア 小山市の特徴や魅力を考古、歴史、民俗、自然の分野からわかりやすく伝える常設展示の整備

小山の魅力がもっとわかる、もっと好きになる「つながり」が見える展示へと、常設展示の内容を見直し、市内外に向けた発信力の強化を図ります。

また、展示室内でのデジタル活用による解説の導入も検討します。

■検討ステップ

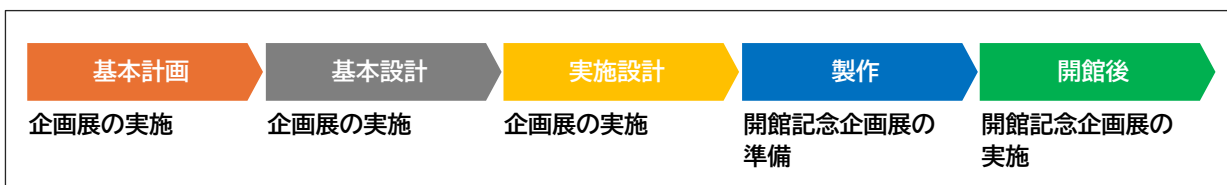


イ 企画展示の実施と関連情報の発信

これまでは企画展示室の面積に制限があったことから十分な規模の企画展が開催できていませんでしたが、新博物館ではこれまで以上に調査研究の内容を反映させ、充実した内容の企画展を実施することを目指します。

また、新博物館開館時には開館記念企画展を開催することを予定します。

■検討ステップ

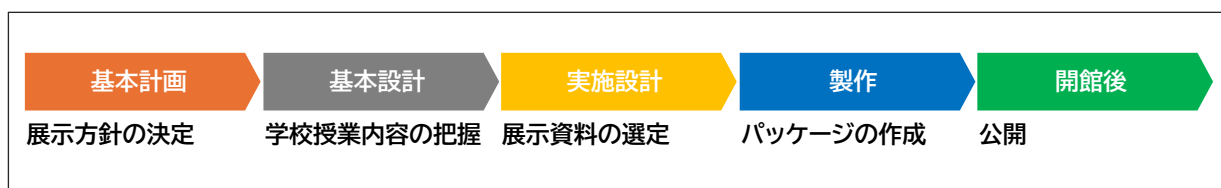


ウ 年間の学校教育プログラムに合わせた展示プログラムの開発、運用

博学連携プログラムの一つとして、学校利用をより推進するためのプログラムを開発します。

現在、小学校からは小山の昔の衣食住に関わる民俗資料に対し高い要望があることから、これらの資料をパッケージ化し、定期的に公開することができるよう整備します。通常の企画展を実施していない期間を活用して企画展示室にて上記パッケージの展示をし、プログラムを実施します。

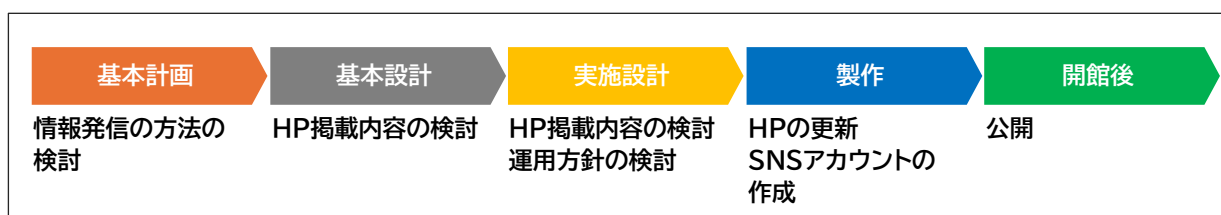
■検討ステップ



エ ホームページやSNS等を活用した情報発信

新たな利用者を獲得していくために、インターネットを活用した積極的な情報発信に取り組めます。ホームページも更新し、展示室内でのデジタル活用による解説との連携や、企画ページの作成などを検討します。SNS等の活用についても積極的に検討します。

■検討ステップ



5. 教育普及活動

(1) 活動の方向性と想定する主な取組

郷土愛を育み、市民の知的好奇心を喚起する活動の展開を方向性として、次のような取組を推進します。

■想定する主な取組

- 学校利用推進事業および学校教育支援事業の継続、発展
- 「ほっしー★OYAMA号」による天体観望会・太陽観測会の継続、発展
- 学芸員および外部講師による体験講座、講演会の継続、発展
- 大学等の高等教育機関との教育連携等、新たな学校連携事業の開拓 など

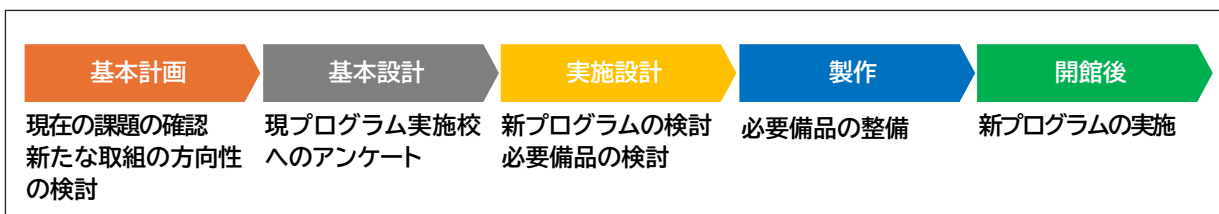
(2) 取組の考え方と検討ステップ

ア 学校利用推進事業および学校教育支援事業の継続、発展

現博物館の社会教育事業は全国でも有数の活動を誇っています。しかし、自然分野の学芸員がいないことによる理科系プログラムの監修者の不在や、実施希望が集中すると、担当者の負担が集中する等の課題もあります。また、事業の主旨や意義を正しく理解いただけるような周知を行うことも課題としてあげられます。

今後、より充実したプログラムを実施するために、自然分野の学芸員の確保の他、学校等との交流の場を設けての事業の周知とともに、学校側の要望をヒアリングする等、教育関係者との連携が必要となっています。

■検討ステップ

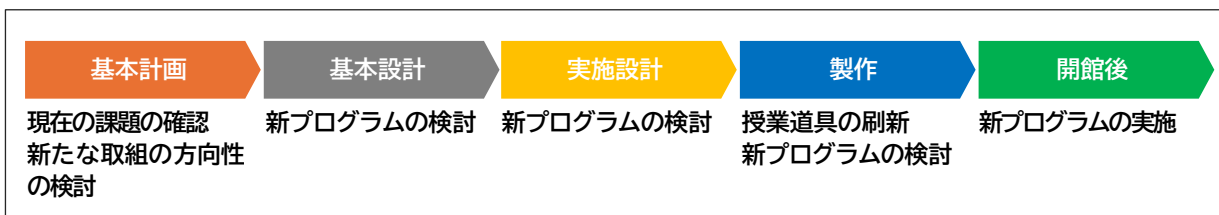


イ 「ほっしー★OYAMA号」による天体望遠会・太陽観測会の継続、発展

「ほっしー★OYAMA号」は運転に中型免許が必要なため、今後運転可能な人員が不足することが懸念されます。また、現在も天文ボランティアの方が事業をサポートしていますが、事業の性質上、夜間の出勤となることから、人員の確保を含めた検討が必要となります。

天文ボランティアの育成をサポートするための人材が不足しており、よりプログラムの質を向上するために、職員の人員の確保が課題としてあげられます。

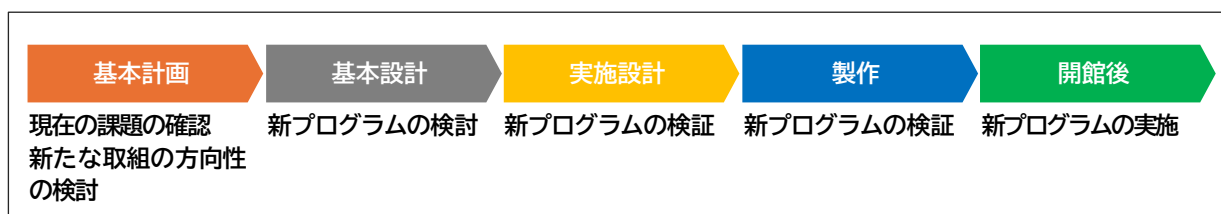
■検討ステップ



ウ 学芸員および外部講師による体験講座、講演会の継続、発展

現博物館では研修室の規模が小さく、市民の需要に対し大規模な講演会等の実施が困難といった課題がありました。新博物館では「間々田のじゃがまいた伝承館」(以下、伝承館)スペースとの連携も含め開催場所を検討し、市民の要望に対し十分な規模の講座や講演会の実施を目指します。

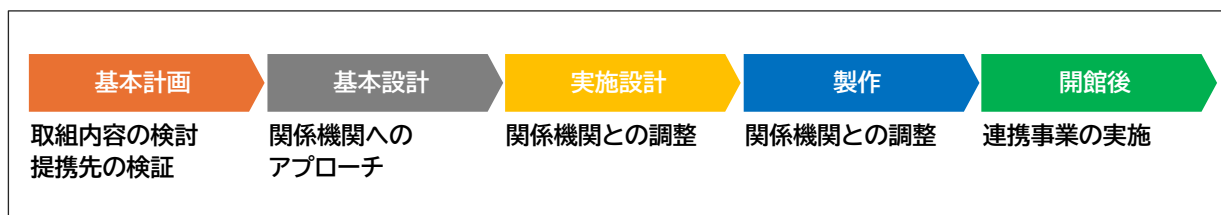
■検討ステップ



エ 大学等の高等教育機関との教育連携等、新たな学校連携事業の開拓

これまで行ってきた学芸員実習の継続的な受け入れの他に、学生による企画展示の実施や研究発表の場として博物館施設を提供し、教育連携を推進します。 ※連携先候補 近隣大学や専門学校 等
学芸員による教員向けのプログラムとして、博物館資料の授業への活用方法等の指導・支援等を実施し、新たな学校連携事業を開拓し、博学連携をより一層充実したものとしていきます。

■検討ステップ



6. 他機関連携活動

(1) 活動の方向性と想定する主な取組

小山市内の文化施設を中心に連携をはかり、「小山市文化財保存活用地域計画」のもと「おやま歴史文化ネットワーク」の構築にむけて、中核施設として取組むことを方向性として、次のような取組を推進します。

■想定する主な取組

- 「おやま歴史文化ネットワーク」の推進
- 「おやま歴史文化ネットワーク」の構築にむけた仕組みづくりと各所調整
- 市内他施設等をフィールドとした体験活動、見学会等の連携事業の継続、発展
- 市民・観光客の新博物館を拠点とした市内回遊促進のためのしかけづくり
- 近隣の大学等専門機関との学術的交流の強化 など

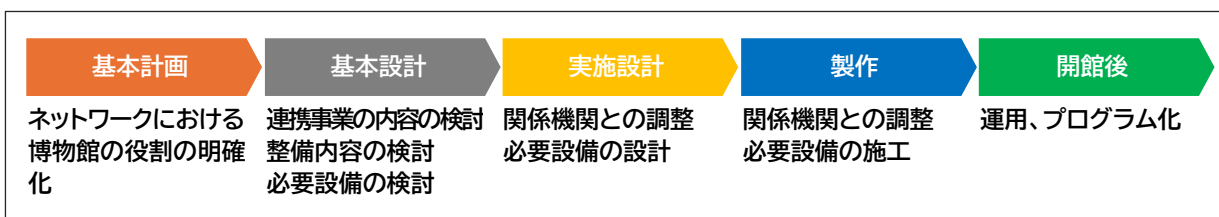
(2) 取組の考え方と検討ステップ

ア 「おやま歴史文化ネットワーク」の推進

ネットワークの中核施設としての役割を新博物館で担い、文化振興部局と連携の上、市内関係各所と調整をはかり、市内文化財を有効に活用していく仕組みづくりに寄与します。そのための取組として、市内文化財の認知度の向上や有効な活用に関与するため、地元関連団体と協力して、市内他施設等をフィールドとした体験活動、見学会等の連携事業の継続、発展にむけた取組をおこないます。

また新博物館から他施設へ誘導するための館内しかけづくりとして、常設展示室において小山市の大きな画期となる史跡等の展示を行い、市内文化資源への誘引をはかります。エントランスにて、他施設へのガイダンスを行うための仕組みを導入し、他施設の情報提供等を実施します。

■検討ステップ

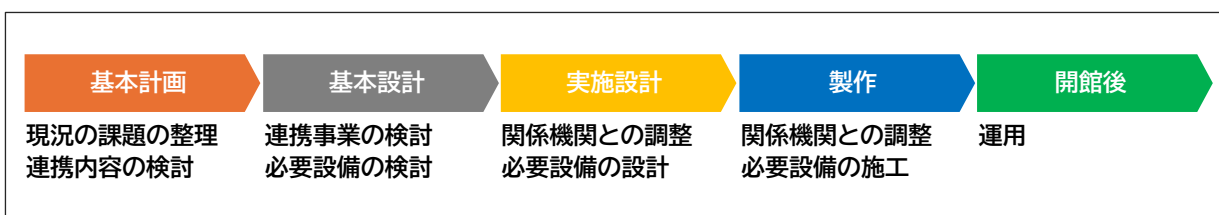


イ 近隣の大学等専門機関との学術的交流の強化

新博物館で取り扱う考古・歴史・民俗・自然の分野に関する調査研究活動において、より高度な研究を行うため近隣の大学等と定期的な学術交流を図ります。

※連携先候補 近隣の博物館、大学や専門学校 等

■検討ステップ



7. 体験交流活動

(1) 活動の方向性と想定する主な取組

市民が考古、歴史、民俗、自然に関わる各種活動を行うための場や、そのために必要な学術的知識等のサポートを行い、より活発で専門性の高い市民活動の展開を促すことを活動の方向性として、次のような取組を推進します。

■想定する主な取組

- 市民による研究活動への情報提供等のサポート
- 博物館友の会及びボランティアに関する活動の推進
- 博物館友の会の活動内容の拡充と新規募集
- ボランティア活動の支援と新規募集
- 小山市少年少女発明クラブ等の支援と新規募集 など

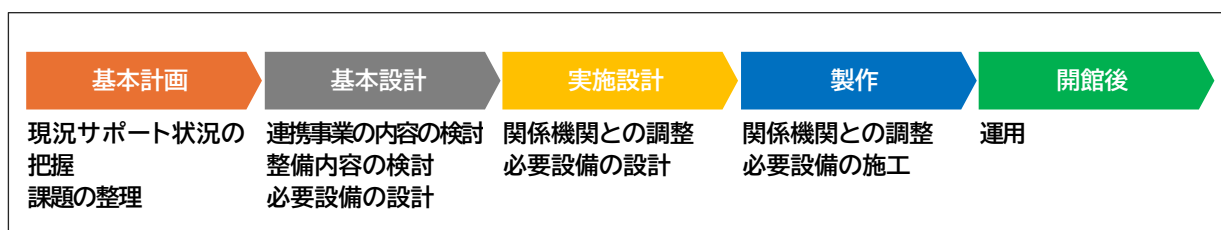
(2) 取組の考え方と検討ステップ

ア 市民による研究活動への情報提供等のサポート

常設展及び企画展等に関する情報提供のための文献資料を充実させるとともに、「おやま歴史文化ネットワーク」を構築する中で、図書館等と連携することで、企画展等の展示関連書籍に関する情報を提供し、図書館への誘引を図る等の工夫をします。

また、エントランスにて、子ども向けに博物館関連書籍を紹介するスペースの導入を検討します。

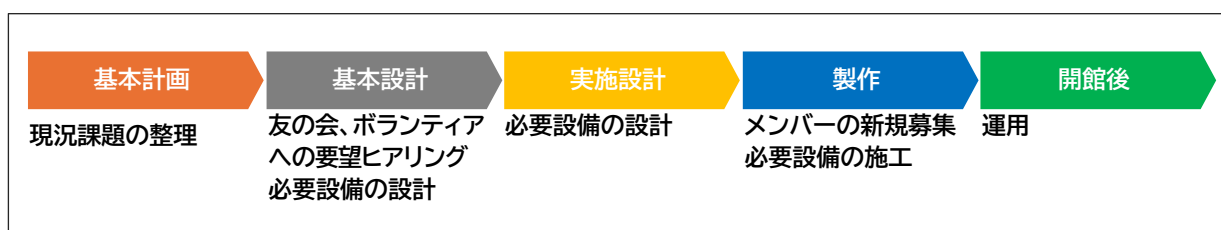
■検討ステップ



イ 博物館友の会及びボランティアに関する活動の推進

博物館友の会やボランティアのメンバーは年々固定化しています。新博物館のオープンに合わせ、新たなメンバーの募集を図り、新しい視点での活動内容の拡充や、新たな活動が生まれやすくなるよう、自発的な学びが活発化する環境や体制を整備します。

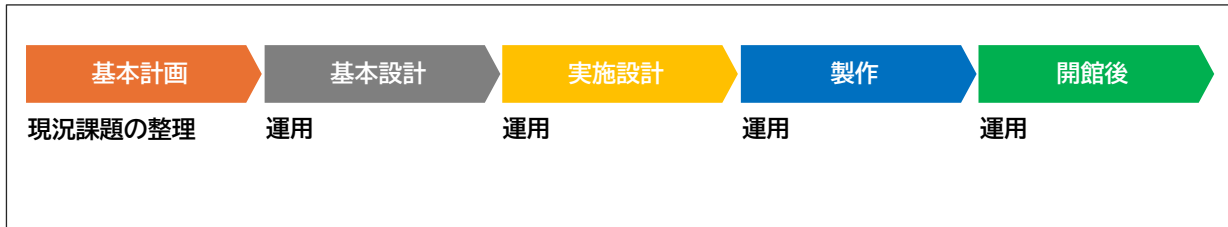
■検討ステップ



ウ 小山市少年少女発明クラブ等の支援と新規募集

子どもたちに科学的な興味と関心を追及する場を提供し、創造性豊かな人間形成を図ることを目的とした活動で、小3～中1を対象とし、毎年30名程度募集しています。現在は月2回製作活動を博物館にて行い、県発明工夫展への出品をサポートする活動をしており、新博物館においても継続した事業のサポートをおこないます。

■検討ステップ



第3章 展示計画

1. 基本方針と展示テーマ

(1) 展示のテーマと方針

ア 展示テーマ

川と大地とわたし

小山の暮らしの中に息づく「自然と風土」「歴史と文化」「人の暮らし」を
さまざまな視点から掘り下げ、
来館者一人ひとりの“わたし”の未来につなげる

イ 展示方針

- (ア) 市内外に向けて「田園環境都市おやま」の魅力や特徴をわかりやすく発信
- (イ) 来館者が小山の魅力を今ある自分につながる“我がこと”として捉え、未来を考えていくことができる展示
- (ウ) 市民や観光客を市内回遊に誘う展示として、各地域の魅力を発信
- (エ) 常に最新の研究成果を発表し続ける場

ウ 展開のポイント

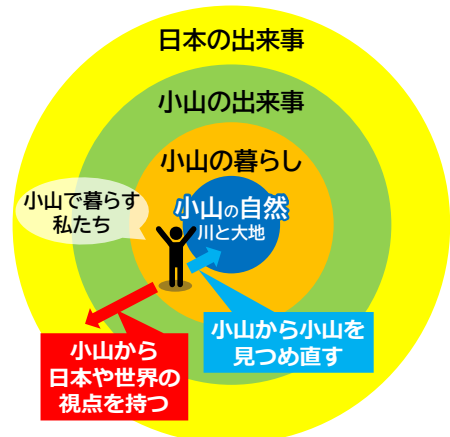
- (ア) 新博物館では、考古・歴史・民俗・自然の4分野を扱う総合博物館を目指します。
- (イ) 小山の魅力を全体から、詳細へと具体化するような展示を心がけます。
- (ウ) 来館者が「ホンモノ」=文化財に出会う体験を大切にします。

(2) 目指す展示の姿

「つながり」が見えると 小山の魅力がもっとわかる、好きになる、未来をつくる

多様な展示を通じて、新博物館の目指す姿である「ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、未来へのつながりを育む」の実現に向けて取組みます。

- ・「つながり」に、気づく・見つける・広げる体験を生み出します。
- ・「つながり」の視点を持ち帰り、小山のまちや、暮らしを見つめ直すきっかけ作りを行います。
- ・小山を愛する一人ひとりが小山の魅力発信の担い手となり、「つながり」を大切にしようとする機運を高めます。
- ・市民の和を広げ、小山の「つながり」をさらに強く、長く続く意識につなげます。



(3) 展示体験の考え方

つながりに気づく展示体験

小山の歴史や暮らしの中に存在する多様な「つながり」に気づく体験として、「違うもの」と思っていたものへの共通点の発見など、新たな視点に気づく体験を通し、様々な「つながり」を見出すことで楽しいコミュニケーションをとることができる展示とします。

■「つながり」に気づく展示体験のイメージ

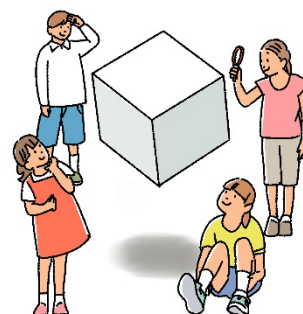
他者の意見を知る

自分と異なる意見を知ること
新しい気づきを得ることができます。



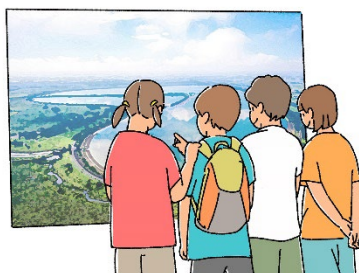
多面性に気づく

新たな一面を発見することで
興味・関心や楽しみを広げることができます。



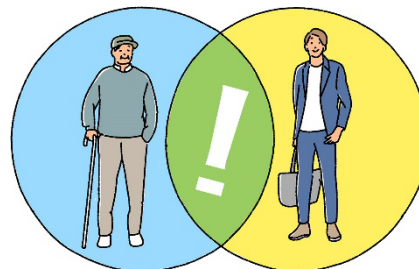
共同体験をする

他の人と感情や発見を共有することで、
親しみや興味が一層深くなることができます。



共通点を見つける

分野や領域を超えた共通点の発見は
新しい視点や考える力を得ることにつながります。



2. 展示解説の考え方

(1) 展示解説

多様な「つながり」に気づいてもらうきっかけとして、実物展示に加え、様々な展示手法を用いて解説します。来館者が展示をみることで小山の様々な「つながり」に気づくとともに、自分で「つながり」を探し、発見し、それを発信・共有することで「つながり」の輪がさらに広がっていくことを目指します。展示手法については、今後展示構成や展示資料を選定していく中で最適な手法を検討していきます。

ア 「つながり」に気づくための展示解説例

物語に触れる

トピックの背景や関連人物のエピソードなどをストーリー仕立てで紹介する



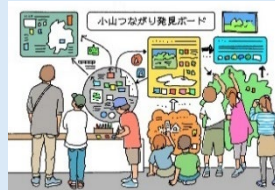
一緒に体験・作業をする

参加者に問いかける展示や、複数人で体験するプログラムにより、体験を共有する



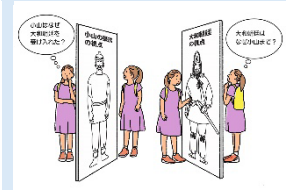
自分の考えを残す

掲示板や、投票ボードなどに来館者の意見やアイデアを残し、共有する



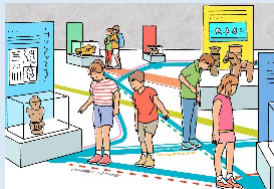
視点、立場を変えてみる

ひとつのトピックに対して様々な角度や視点から向き合ってみる



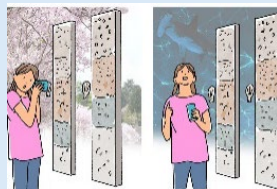
線や色、印でつなぐ

つながりのあるトピック同士を視覚的に線や色やマークでつなぐ



音でつなぐ

つながりのあるトピック同士に共通の効果音や音響効果を持たせる



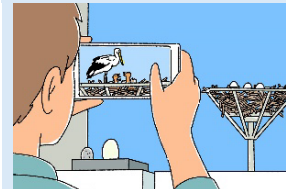
暮らしを体感する

実寸大に復元された展示をみることで、生活の違いや共通点を体感する



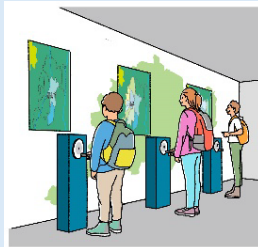
過去とつながる

資料が使われていた様子や、生きていた時の状態など過去の姿を重ねて見る



時間を早める・巻き戻す

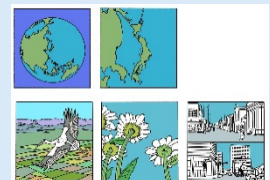
同じ場所や物体をタイムラプス映像などで観察する



小山市の市域の変遷等

スケールを変える

小山と日本、1日と1年など、大きさや時間の単位を変えてみる

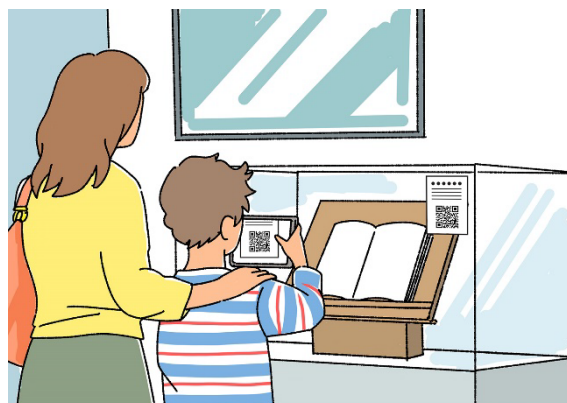


鳥の目線や虫の目線等異なる時代の街の風景等

イ 興味関心に応じ、それぞれが深掘することのできる展示解説

グラフィックパネルなど、常時展示室に掲示される解説については、学校教育との連携も踏まえ簡潔でわかりやすい表現とし、小学校5年生以上の学習漢字にはルビを振る等の対応を検討します。

それぞれの興味関心に対応することを目指し、利用者が所有するスマートフォンやタブレット等の通信端末からWebページへのアクセスができる仕組みを検討します。Webページではより深く知りたい方向けの詳しい解説や、画像や動画の表示、多言語対応などの情報提供を検討します。



3. 展示構成

新博物館の展示は、エントランス、常設展示室、企画展示室の3エリアで構成します。

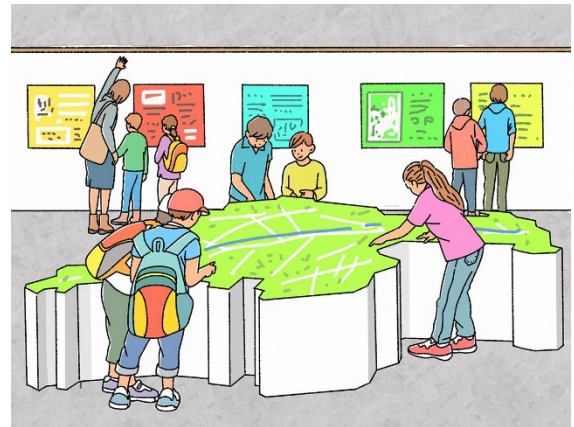
(1) エントランス

小山の「いま」と「これから」の魅力が集い、「つながり」を育むスペースとしてのエントランス空間とします。エントランスには、常設展示へとつなぐガイダンス展示を設け、新博物館を訪れた人が常設展示室へ興味を持つためのきっかけとして位置づけます。

ア ガイダンス

「小山つながり発見ジオラマ」

小山を取り巻く多様な「つながり」を探し、見つける楽しさを体験できるガイダンス模型を設置します。常設展示のイントロダクション映像が表示されるなど、常設展示の入口としての機能を持つとともに、市内の遺跡や、文化施設等を紹介するなどのガイダンス機能を有します。



イ 子ども向けの展示スペース

「触れる展示コーナー」

資料をハンズオン手法で楽しみながら観察できる展示スペース。小さな子どもが遊びながら自然と博物館の資料に親しみ、興味を持ってもらえる展示とし、子ども向けのガイダンス機能を有します。

資料交換が可能な仕様とします。



(2) 常設展示室

常設展示室では、考古、歴史、民俗、自然の4分野に加えコレクション展示のコーナーを設け、小山の暮らしの中に息づく「自然と風土」「歴史と文化」「人の暮らし」を掘り下げます。小山に存在する様々な「つながり」を実物資料と解説で伝える展示室とし、「つながり」に気づくための様々な仕掛けを取り入れた展示とします。興味のある展示を深掘りしながらじっくり見学したり、ゆっくり座りながら見学したりするなど、来館者が自由に過ごすことのできる空間として整備します。



またコレクション展示では季節に合わせた展示など、定期的に展示替えを行い、何度も来たくなる常設展示室を目指します。

ア 自然分野の展示構成案

小山の地形を造りだした河川や、特徴的な渡良瀬遊水地などを取り上げ、小山の動植物も紹介します。

■大項目1.小山市内の地形

中項目	伝える内容	資料
小山市内の地形	現在の小山の地形やそれに至るまでの変化	地形の模型 岩石(鉱物)や化石(貝)

■大項目2.小山市内の生き物

中項目	伝える内容	資料
小山市内の動植物(陸上)	豊かな自然	標本・写真等(哺乳類、鳥類、爬虫類) 標本・写真等(チョウ・トンボ・甲虫類など) 標本・写真等(思川桜など)
小山市内の動植物(水中)	豊かな自然	標本・写真等(両生類、魚類) 標本・写真等(ゲンゴロウなど主に水生昆虫) 標本・写真等(ミズオオバコなど)
渡良瀬遊水地に生息する動植物	豊かな自然	標本・写真等(チュウヒ、コウノトリなど) 標本・写真等(ワタラセハンミョウモドキ、チョウトンボなど) 標本・写真等(ワタラセツリフネソウ、アシなど) 標本・写真等(渡良瀬遊水地の景観など)

■大項目3.小山市内の動植物たちの変化

中項目	伝える内容	資料
小山市内の動植物たちの変化	小山市内の自然の変化	標本・写真等(クビアカツヤカミキリ、ブルーギル、スクミリンゴガイなど)

■大項目4.自然を維持していくための活動

中項目	伝える内容	資料
自然を維持していくための活動	豊かな自然を未来に残していくために(環境保全)	標本・写真等(セイタカアワダチソウ除去作戦、掘削や駆除など)

イ 歴史分野の展示構成案

日本の中の小山という視点を大切にする展示です。小山は旧石器時代から現代に至るまで人々が暮らし続け、さらにわが国の中心的な歴史との関わりを多く持つことから、日本の通史との関係性を示しながら小山の歴史を紹介します。

■大項目1.旧石器時代～平安時代

中項目	伝える内容	資料
豊かな大地に暮らしはじめた人々 ・旧石器時代 ・縄文時代	人類の居住と自然との関わりを紹介する。縄文時代のイメージを塗り替えた寺野東遺跡をはじめ、縄文時代の遺跡が多い本市の自然環境をまじえ、縄文人の暮らしと知恵を紹介する。	ナウマンゾウ第三臼歯
		寺野東遺跡出土遺物
		乙女北浦遺跡出土遺物
		福井家蔵遺物
ムラからクニへ ・弥生時代 ・古墳時代 ・古墳時代	本市域にも稲作が伝わり、ムラやクニが形成され、やがてヤマト王権のもとで、巨大な前方後円墳を築く豪族が出現したことを紹介する。また多くの中小規模の古墳が点在し、遠隔地との交流があったことや、当時の生活について紹介する。	下犬塚遺跡出土遺物
		中久喜遺跡出土遺物
		小銅鐸(複製)
		桑57号墳出土遺物
		琵琶塚古墳出土遺物
		摩利支天塚古墳出土遺物
		雷電神社古墳石室
		牧ノ内古墳群出土遺物
律令制度の支配と変容する社会 ・奈良時代 ・平安時代	律令制度の下で下毛野国に含まれた本市域には、下野薬師寺・下野国分寺の造瓦所(乙女不動原瓦窯跡)が営まれるなど地の利があった。当時の人々の暮らしを紹介するとともに、藤原秀郷や平将門が付近で争い、武士の時代の幕を開く舞台となった地域であることを紹介する。	宮内東遺跡出土遺物
		乙女不動原瓦窯跡出土遺物
		千駄塚浅間遺跡出土遺物
		各遺跡出土の鉄製品
		平将門の乱関連資料
		将門記(複製)
		栃木県博本依藤太絵巻(複製)

■大項目2.中世～鎌倉・南北朝・室町・戦国時代～

中項目	伝える内容	資料
小山氏の成立と展開	藤原秀郷の系譜に連なる中世小山氏の、活躍と展開を紹介する。小山氏は鎌倉幕府の創業に貢献し、源頼朝から信頼され発展した。しかし南北朝時代に義政の乱で大きく勢力を削減されてしまう。その後は古河公方を支持しながら、周辺の戦国大名と攻防を繰り返し、小田原北条氏に服属し、最後は豊臣秀吉の天下統一とともに消滅した。	源頼朝袖判下文(複製)
		小山朝政譲状(複製)
		小山義政の乱関係資料
		小山氏の城館群の紹介
		古河公方関係資料
		小山家文書(複製)
		北条氏の支配(円満寺文書)
		在地土豪(大橋文書)
中世小山と宗教	鎌倉時代の小山では、善光寺信仰が隆盛した。また市内では多くの板碑が発見されるなど、特徴的な宗教の展開を見せたようである。	善光寺信仰関係資料
		蓬萊経(複製)・鰐口(複製)
		小山義政奉納太刀(複製)
		乙女八幡宮奉納太刀(銘正宗)
発掘された中世の小山	市内では発掘調査の進展により、中世に関する遺構・遺物がかかり	板碑(寄託)
		祇園城跡遺物
		神鳥谷曲輪跡遺物

中項目	伝える内容	資料
	調査されている。考古資料から見えてきた中世小山の諸相について紹介する。	外城遺跡遺物
		喜沢海道間遺跡遺物
		金山遺跡出土遺物

■大項目3.近世

中項目	伝える内容	資料
小山評定と小山御殿	小山評定を経て関ヶ原合戦が起こり、徳川幕府の成立へとつながること、小山評定の地に小山御殿が造られ、由緒の地として将軍家を使用したことを紹介する。	『東照宮実紀』に基づく小山評定の映像 小山評定古文書(蘆名平四郎宛徳川家康書状ほか) 小山評定文献(慶長記、『東照宮御実紀』ほか) 小山御殿絵図(小山城絵図、小山御殿絵図ほか) 小山御殿文献(日光御社参古河日記ほか)
近世の小山領支配	近世小山の所領支配の展開について、近世初期からの移動を紹介する。小山藩主本多正純をはじめとする市域の領主について取り上げる。	小山秀綱・結城晴友古文書(結城晴朝願文ほか) 本多正純古文書(大関資増宛 本多正純書状ほか) 正純文献巷説(本光国師日記『釣天井宇都宮奇談』ほか) 本多忠純古文書(榎本領有高之覚ほか)
河岸と舟運	市内の河川に沿って多くの河岸がつくられ、活発な舟運がなされたことを紹介する。特に乙女河岸が重要な役割を果たしたことを伝える。	乙女河岸模型(要修復) 乙女河岸で使われた道具(錨、絵皿など) 乙女河岸古文書(日光御普請御用古来仕来書) その他の河岸紹介(『大日本博覧図柄木県之図』など)
日光道中・宿場	日光道中および脇街道のひろがり、そこでの暮らしや風景、にぎわいを紹介する。絵図と文献のデータを来館者が自由に選んでみられるような展示にする。	日光道中の絵図(日光道中絵図ほか) 市域宿場の絵図挿絵(小山宿絵図、『お国替絵巻』ほか) 市域宿場の様子を記した文献(『山菅の小笠』ほか多数) 市域宿場で使われた道具(駕籠、旗ほか) 小山宿出土品(祇園城関連遺跡3区出土品) 日光道中を通った著名人(松尾芭蕉、伊能忠敬) 継立と助郷負担(日光道中助郷絵図ほか)
小山の幕末と戊辰戦争	大橋家など尊王攘夷運動へ参加した人材を生んだことや、戊辰戦争小山の戦いについて紹介。	幕末を象徴する資料(『海国兵談』ほか) 大橋家(大橋淡雅夫妻像ほか) 天狗党関係資料(天狗党行列見聞記ほか) 戊辰戦争小山の戦いを映像で解説 小山の戦い画像、記録(戊辰戦争絵巻物、名主日記ほか) 五榜の掲示

■大項目4.近代～

中項目	伝える内容	資料
鉄道の開通と近代のはじまり	鉄道の開通が現在の小山の発展につながっていることを紹介。通運丸や東北新幹線もここで取り扱う。	助郷役廃止の廻達など 東北線工事図絵馬 栃木県小山町小山停車場汽車発着之真景、写真資料 通運丸(模型、通運会社川蒸気往復盛栄真景之図など) 新幹線開通記念写真
小山の災害と渡良瀬遊水地の完成	水害に苦しんだ歴史と渡良瀬遊水地の役割について紹介。田中正造の活動を助けた碓井要作を取り上げる。	写真資料(生井村周辺の洪水被害写真など) 碓井要作資料(写真、著書、揮毫集など)
日清・日露・太平洋戦争	収蔵資料から出征していった兵士と銃後の暮らしを紹介。戦争の記憶を残すための展示とする。	日清戦争(日清戦争図絵馬ほか) 日露戦争(日露戦役金蘭簿ほか) 太平洋戦争出征資料(出征兵士用タスキ、千人針ほか) 銃後の暮らし資料(鉄兜、紙芝居ほか)

中項目	伝える内容	資料
		戦争の終焉(出征兵士の遺髪・遺書ほか)
小山市の成立と発展	小山市制施行から、最終合併までの歴史を紹介する。近代以降の土地開発や産業の発展を具体的資料で提示する。	新聞資料 写真資料(航空写真など) 絵図地図(小山町絵図など) 産業関係(小山銀行関係資料など)
これからの小山	現在の私たちの暮らしについて紹介。私たちの暮らしが歴史とつながっていることを感じてもらう展示。	平成期新聞折り込みチラシなど 資料の保存活動(写真など)を紹介 来館者が好きなものを置いて撮影できる展示台など

ウ 民俗分野の展示構成案

小山に住む人々はその土地の環境の中で、工夫してくらしてきました。小山の環境を活かした人々の生活や生業などの特徴を紹介します。

■大項目1.小山で生きる～土地とくらし～(仮題)

中項目	伝える内容	資料 / 資料内容		
		低地のくらし 思川西側の稲作と 生井の水郷地域の くらし	台地のくらし 思川東側の畑作と 桑・絹の養蚕地域の くらし	町場のくらし 小山・間々田・羽川の 旧宿場 (小山を中心に)
景観・土地利用 (空間)	[景観の形成] 資源利用や災害対策をする中で、今も残る田園風景や町並みが形成されたこと [住まいの民俗] 地域ごとに地形や水利、気候、社会条件に適した集落・家屋を築いてきたこと	泥田での稲作 水害対策を施した集村(水塚・輪中・水田のジオラマ)	雑木林を利用した畑作 近世の灌漑でできた散村(用水・屋敷・畑のジオラマ)	土蔵造りの家並み 宿場の名残を持つ地割(街道・店・町のジオラマ)
生活の中の暦 (時間)	[生業暦の概観] 季節の移り変わりに応じて様々な仕事を組み合わせて行っていたこと [生業から見る年中行事] 今でも見られる年中行事には仕事と結びついたものが多くあること	稲作農家の年 生井地区の農家の一年(生業暦・年中行事のパネル) 行事を紹介する映像	畑作農家の一年 養蚕農家の一年 (生業暦・年中行事のパネル) 行事を紹介する映像	小山の町の一年 (生業暦・年中行事のパネル) 行事を紹介する映像
メインの生業	[民具に見る知恵] 仕事の効率や生産性を高めるため、工夫をこらした民具が使用されたこと [生業から見る衣食]仕事に適した衣服を着て、生産した食材を用いて食事をしていたこと [民具の多様性] 同じ民具でも、地域によって形状や呼称が異なり、時代によって変化すること	稲作の道具 仕事着、ハレとケの食事 市内各地の鋤・犁 (野良着・鋤・犁・馬鋤・苗取籠・田舟・田下駄・除草機・鎌・千歯扱・脱穀機・箕・唐箕・土臼・俵編・草履編)	麦作の道具 仕事着、ハレとケの食事市内各地の振打棒・播種 (唐鋤・柄鋤・振馬鋤・均板・播種機・中耕機・麦踏機・鋤簾・土入機・鎌・振打棒・箱篩・麦藁細工)	帳場の道具 仕事着 (帳場机・大福帳・算盤・秤・銭箱・銭枺・看板)
その他の生業	[生業の複合性] 稲作・麦作だけで生活する農家は少なく、様々な仕事を組み合わせていたこと [地場産業の支援] 結城紬や酒蔵など伝統的な生業を地域のブランドとして今も続けていること [町の人付き合い] 町は商家だけでなくトビや馬車引きなどの人々が支え合い成立していたこと	[漁撈] 投網・ウケ・ヤス [蚕種] 種紙・鑑札 [酒造] 樽・蒸籠・櫓・酒器 [ヨシ] 写真 マコモゴザ編み	[養蚕] 桑籠・桑切機・蔭 [紬] ツクシ・ワク・地機 [干瓢] 木葉籠・干瓢剥機 [林業] 斧・鉋・鋸	[鳶・火消し] 印半纏 [馬車引き] 馬車の写真 [船頭]写真

■大項目2.人々の願い～まつりと信仰～(仮題)

中項目	伝える内容	資料
国指定重要無形民俗文化財 「間々田のじゃがまいた」	[間々田への回遊性] 地元である間々田には宿場町としての歴史的・地理的特色があり、散策を楽しめる史跡が多くあること [じゃがまいたの伝承] じゃがまいたが地域に果たす役割を示し、次の世代もじゃがまいたを通じて、地域と結びつきながら楽しめるよう、じゃがまいたを伝承する必要があること	各町や八幡宮の地理・歴史(地図パネル)
		蛇体の材料、工程のイラスト、蛇体づくり・各町の蛇頭の写真(写真、解説)
		祭礼の流れ(記録した映像)
		各地のじゃがまいたに似た祭礼(分布図)
まつりと信仰	[信仰の多様性] 五穀豊穡や疫病退散などの願いを各地域で様々な形で祈り、それを今に至るまで継承し続けてきたこと [保存地域への回遊性] 継承が危ぶまれている祭祀もある中で、見に行くことでも継承の機運を高められること	花桶・鬼面・飾り馬
		制作の映像
		屋台彫刻・太鼓・笛
		屋台とお囃子の映像
		神楽の衣装・面・採物・絵馬
		神楽の映像 ナムジゾウ・まわり地蔵・講などの映像

■大項目3.その他の展示

中項目	伝える内容	資料
小山の手仕事	結城紬、間々田紐、下野しぼり	作品
地区名と地区ごとの特色の展示	地区(旧10町村)を紹介。どこが低地でどこが台地に含まれるのか等を説明。	ジオラマ

エ コレクション展示の展示構成案

定期的に資料を入れ替え、収蔵資料を紹介します。

■大項目1.博物館収蔵コレクション

中項目	伝える内容	資料
博物館収蔵コレクション	博物館には多種多様な資料が保存されていることを紹介する。企画展では出しきれない資料を公開し、収集保存事業について理解してもらう。常設展に変化をつけ、繰り返し来館したくなる展示室をつくる。	世界／日本の昆虫
		世界／日本の動物(剥製)
		昔の暮らし
		錦絵コレクション(岸家・山口家)
		貴重書・和古書
		刀剣などの武具
		明治～昭和期の新聞
		平成期の新聞折込チラシ
		中世文書(大橋家・石塚家)
		祇園城出土板碑・遺物

(3) 企画展示室

企画展示室では、学芸員の研究成果を館所蔵資料や他館からの借用資料を活用して公開していきます。春、夏、秋の年3回程度の企画展示を行うとともに、企画展示を行っていない期間には、学校教育と連携して、小山の昔の衣食住に関わる道具などを展示します。

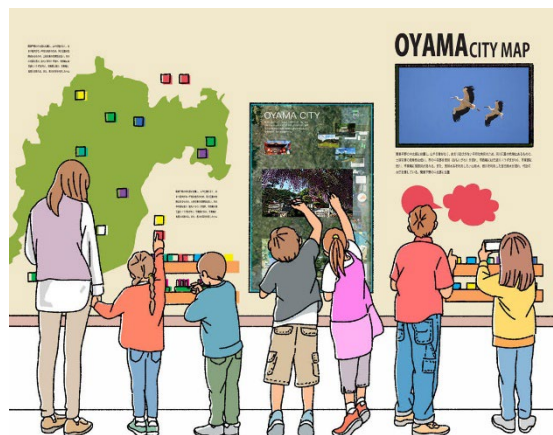


4. 情報発信

展示室以外にも小山の魅力を発信する場を設け、多くの市民や観光客の方に、新博物館をきっかけに他の施設や文化に興味を持っていただける機会を創出します。

(1) 「OYAMA観光マップ」

新博物館のエントランス内に設け、小山の魅力を観光情報として発信し、周遊を促し、博物館とまちの「つながり」育みます。観光協会が発行するパンフレットの設置や、周辺の回遊ルートの情報提供等を検討します。また、来館者がおすすめの観光スポットを紹介できるようにするなど、来館者同士のコミュニケーションの場としても機能します。



(2) 「みんなのライブラリー」

新博物館のエントランス内に設け、市民が気軽に博物館を訪れ、知識を深められる場所とし、博物館と市民の「つながり」を育みます。小山の歴史、民俗、自然に関する書籍やデジタル端末の設置等を検討します。また、企画展の関連書籍を紹介し図書館へ誘引するなど、図書館との他機関連携としても機能します。

エントランス内にある多目的スペースや交流スペースとあわせて、市民や観光客が気軽に博物館を訪れたくなる開かれた空間とし、小山への理解を深めたり、展示へ興味を持つきっかけを創出します。



(3) ホームページの整備

博物館の情報発信の場として、館のホームページを刷新します。企画展開催時や、コレクション展示が更新した際の情報発信などを積極的に展開します。

展示室から2次元コードで博物館のホームページ上にある解説などを表示できる仕組みとします。

第4章 施設計画

1. 基本方針

(1) 建築整備の基本方針

幅広い層の市民が集い、つながる新博物館として、以下の基本方針に基づく施設整備を行います。

ア 施設整備の基本方針

(ア) 誰もが使いやすく、安心して利用できる施設づくり

- ・ 多機能・多目的な諸室構成を検討します。
- ・ ユニバーサルデザインを導入します。
- ・ 利用者、管理者・職員が心地よく過ごすことができる空間・環境づくりを行います。

(イ) 交通アクセスを含め市民利用の利便性の高い施設づくり

- ・ 駅から新博物館へのアクセス性の向上をはかります。
- ・ 周辺文化施設への回遊ルートを設定します。

(ウ) 文化財の保存・展示に適した施設機能と環境の整備

- ・ 国宝・重要文化財の保存・展示にも対応できる施設とします。

(エ) 適切な規模の収蔵スペースの確保

- ・ 各外部収蔵庫も含めて収蔵量を把握し、史資料の特性に応じた適切な収蔵環境を整備します。
- ・ 展示等の運用に配慮した収蔵計画とします。
- ・ 新博物館の近隣に館外収蔵庫を整備し、収蔵スペースを確保します。

(オ) 災害に強く、管理運営及び、環境負荷が少ない持続可能性に配慮した施設づくり

- ・ 新博物館と伝承館の一体的な整備を行うことで、今後の事業費上昇のリスク、維持管理にかかるコストを考慮した、効率的・効果的な施設とします。
- ・ 環境保全に配慮した施設とします。
- ・ 多くの利用者が集まる公共施設として、耐震・耐火やその他の防災性を確保し、防犯面への配慮など安全性と安心が確保された施設とします。
- ・ 一部の内装や備品等に栃木県産の木材を活用します(新博物館部分は鉄筋コンクリート造を想定)。

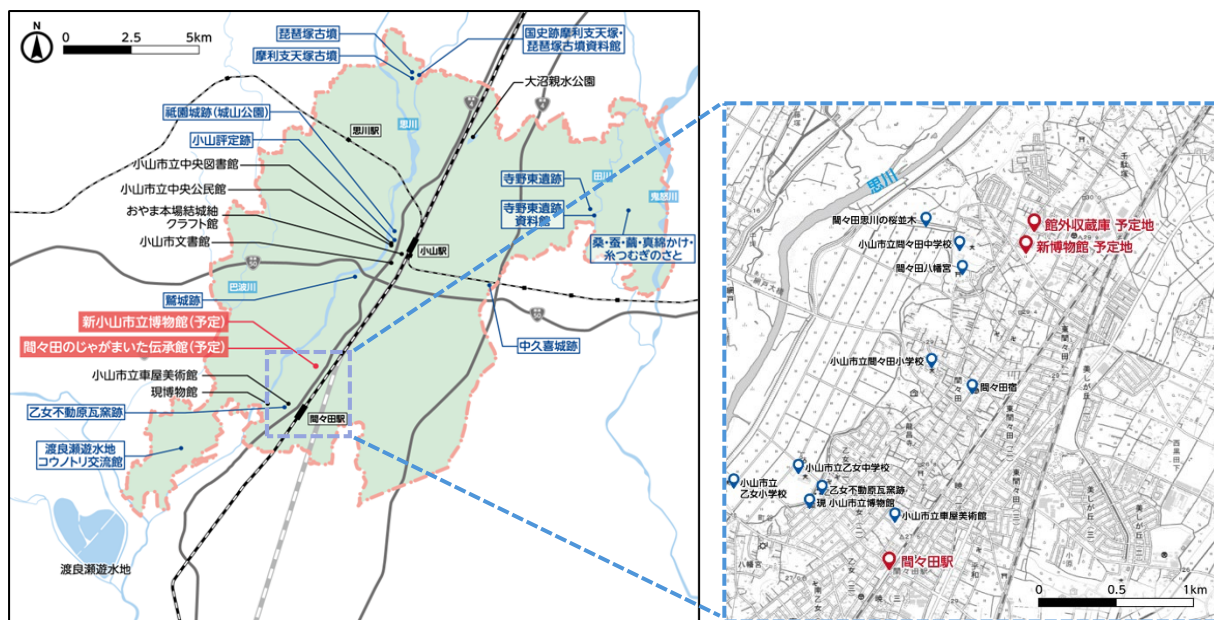
イ 関連施設について

- ・ 伝承館については、「間々田のじゃがまいた伝承館整備基本計画」を最大限尊重しつつ、新博物館と一体的に整備するあり方を検討します。
- ・ 国史跡乙女不動原瓦窯跡のガイダンス機能は、新博物館への移転を検討します。

(2) 建設予定地の条件整理

本事業では、新博物館と伝承館及び館外収蔵庫を建設します。館外収蔵庫の予定地は新博物館予定地の近くとします。

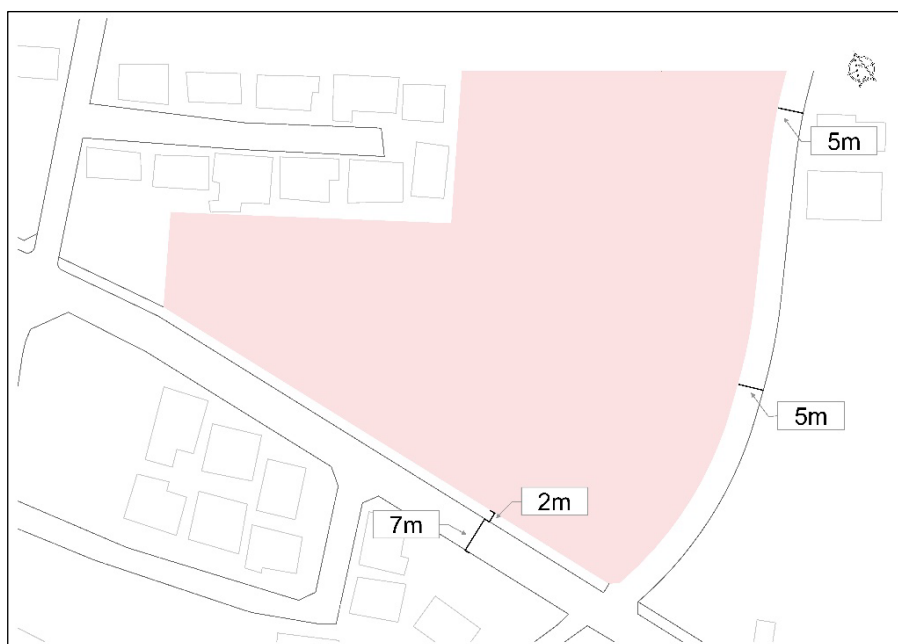
■予定地位置図



ア 新博物館建設予定地の概要

現博物館に近く、また旧日光街道につながる歴史を持つ、国道4号に近接する場所を予定地とします。

(ア) 敷地図



※m表記は道路幅

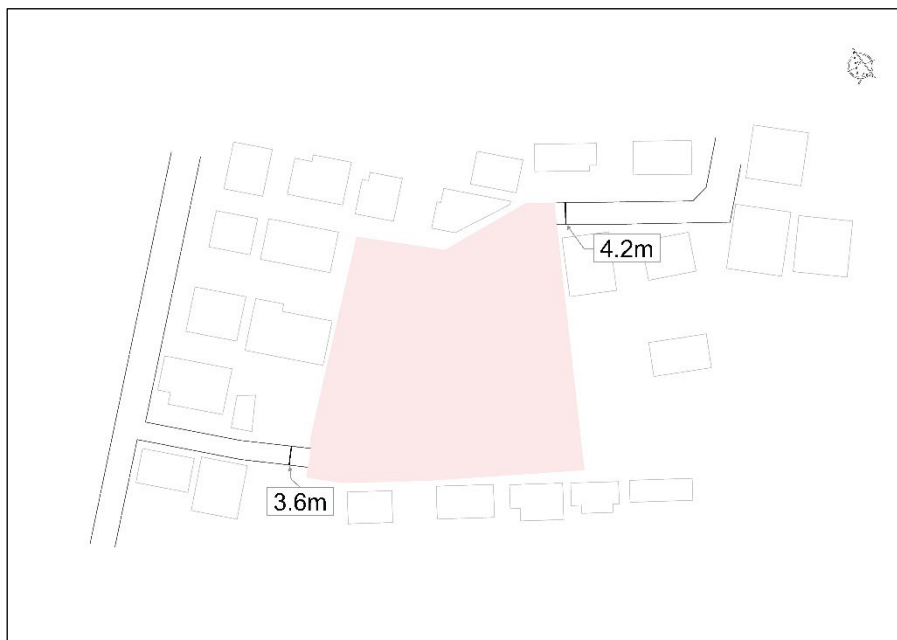
(イ) 敷地与条件

項目	内容
敷地面積	約6,800㎡
用途地域	第1種住居地域
建ぺい率／容積率	60％／200％
防火指定	なし(法22条・23条区域内)
高さ制限	なし
斜線制限	道路:あり、隣地:あり、北側:なし
日影制限	5.0h－3.0h／4.0m
地区計画等	なし

イ 館外収蔵庫建設予定地の概要

新博物館に近い間々田北保育所跡地を予定地とします。

(ア) 敷地図



※m表記は道路幅

エ 敷地与条件

項目	内容
敷地面積	約2,100㎡
用途地域	第1種住居地域
建ぺい率／容積率	60％／200％
防火指定	なし(法22条区域)
高さ制限	なし
斜線制限	道路斜線あり、隣地斜線あり、北側斜線なし
日影制限	5.0h－3.0h／4.0m
地区計画等	なし

2. 求められる諸室機能と構成

(1) 施設与件の整理

ア 諸室の与件整理

新博物館および館外収蔵庫では、文化財のセキュリティーや安全管理、文化財IPM(総合的病害虫管理)を十分に考慮した施設としていきます。上記の条件を基準とし、諸室の利用方法に応じた与件を設定します。

エリア区分	諸室	与件
展示エリア	常設展示室	小山の自然と風土、歴史と文化、人の暮らしについて展示します。 • 恒温恒湿を保つ空調を備えたものとします。 • 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。 • 電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンス、環境負荷に配慮したものとします。 • 展示室内に水漏れ等が発生しないために、給排水の配管が配置されないよう配慮します。 • 特殊消火設備を整えます。 • 来館者の安全確保のため、災害時の避難誘導に十分に配慮します。 • 展示は実物資料を中心とし、グラフィック、映像、音声、模型、参加体験型展示などの手法も取り入れ、誰もが親しめる分かりやすい展示とするため、可変性や展示替え等にも配慮し、天井設備や床設備、電気配線等必要な設備を整えます。 • 建築と展示の設計は綿密な連携を図り、展示活動と空間が融和した設計を検討します。 • 実物資料を展示するための設備はその保存と管理に十分配慮し、また、資料を安全に入れ替え可能な方法を検討します。 • 展示準備室荷捌き室及び収蔵庫との安全な動線を配慮した設計にします。
	企画展示室	広く他館から国指定文化財を含む史資料の借受が可能な環境を有する可変型の展示室とします。 • 恒温恒湿を保つ空調を備えたものとします。 • 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。 • 電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンス、環境負荷に配慮したものとします。 • 展示室内に水漏れ等が発生しないために、給排水の配管が配置されないよう配慮します。 • 特殊消火設備を整えます。 • 来館者の安全確保のため、災害時の避難誘導に十分に配慮します。 • 企画展ごとに様々なレイアウトに対応できるよう天井床設備、電気配線等必要な設備を整えます。 • 可動壁を設け、企画展の規模に応じ柔軟に展示室の広さを変更できるように整備します。 • 建築と展示の設計は綿密な連携を図り、展示活動と空間が融和した設計を検討します。 • 展示準備室荷解き室及び収蔵庫との安全な動線を配慮した設計にします。 • エントランスからの埃や塵を防ぐため、企画展示室の入口にも風除室を検討します。 • 自動扉の導入を検討します。
	展示準備室	• 各展示室の機材展示ケース備品等を保管し、展示更新の準備作業を行えるスペースとします。 • 常設展示室の近くに配置し、資料管理、運営面に考慮します。

エリア区分	諸室	与件
体験交流エリア	エントランス	・ 荷解き室及び収蔵庫との動線を確保します。 エントランスは、博物館が開催するイベントや講座をはじめとした学習機会の醸成や、市内各地にある文化財のガイダンスや観光機能の役割を担います。交流スペースや多目的スペースは来館者が「つながり」を形成できる場所とします。 ・ 周囲の景観との関係を大切にし、自然を感じられる計画とします。 ・ 施設の総合案内機能を有するように配慮します。 ・ 風除室、ガイダンススペース、観光機能のスペース、ライブラリスペース、多目的スペース、交流スペース、キッズスペース、ミュージアムショップをエントランス内に整備します。 ・ 建築と展示の設計は綿密な連携を図り、展示活動と空間が融和した設計を検討します。 ・ 常設展示室、企画展示室は直接風や虫等の進入を防ぐ配置とします。 ・ 館内に来館者が利用できる無線インターネット回線を整備します。 ・ 交流スペースはテーブル等を配置し、様々な世代の方が気軽に立ち寄ることができて、飲物を飲みながら談笑したり、勉強するなど思い思いに過ごせるスペースとします。 ・ 多目的スペースは可変空間とし、一時的なイベントやミニ企画展や体験ができるスペースとします。 ・ 来館者が利用できるコインロッカーを配置します。 ・ キッズスペースは子供が博物館資料に親しめる触れる展示スペースとし、乳幼児向けに一部靴を脱いで利用するスペースも設けます。 ・ 来館者用トイレは男女のほかにバリアフリートイレを設け、トイレ内にはおむつ替えスペースを確保します。 ・ エントランス内に授乳ブース等、授乳スペースを整備します。
	体験学習室	学校連携事業により、小中学校の生徒を対象に博物館で授業を行う際や、各種講座、小山市少年少女発明クラブでの活動等で使用します。 ・ 倉庫20㎡程度を含めて整備します。 ・ 雨天時等、必要に応じて小学生の昼食スペースとして活用します。
	研修室	博物館の各種講座講演会の開催で使用します。 ・ 椅子や机、講演会に必要な機材を収納できるスペースを整備します。 ・ 換気が行いやすい構造とします。
	火起こし土器焼き室	学校連携事業や講座などでの火起こし体験や土器焼きを行います。 ・ 火おこし用具や電気窯等がおける面積を確保します。
	市民活動室	ボランティアの活動、展示解説および小学生の体験活動の準備を行います。 ・ 机、椅子を整備します。 ・ 備品や道具を収納する棚を設置します。
収蔵エリア	収蔵庫	所蔵資料の保存と他館からの借受資料の一次保管に対応します。史資料の種別毎に適切に保存し、耐火性耐震性安全性を有する機能とします。 ・ 外壁と接する箇所は2重壁構造にする等適切な温湿度管理を行います。 ・ 分野ごとに収蔵エリアを区分し、適切な収蔵環境を保ちます。 ・ 特別収蔵庫においてはすべて2重壁構造とし、単独で温湿度管理ができる環境を整えます。 ・ 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。 ・ 電気設備と照明設備は資料保護やメンテナンス、環境負荷に配慮したものとします。 ・ 収蔵庫内に水漏れ等が発生しないために、給排水の配管が配置されないよう配慮します。 ・ 特殊消火設備を整えます。 ・ 収蔵資料にあわせ、必要な収蔵棚等を備えます。

エリア区分	諸室	与件
		・借用資料借受時に環境管理ができるように整備します。 ・収蔵庫扉の出入口は原則として1カ所とし、密閉性、耐火性に十分配慮します。 ・分野ごとの収蔵エリアの入口がそれぞれ収蔵庫前室に接する配置とします。特別収蔵庫については、独立した入口が設けられない場合には歴史収蔵庫内の入口近辺に設けることとします。 ・荷解き室及び展示準備室、展示室との安全な動線に配慮した配置とします。 ・他館の国指定文化財の借受けも可能となるよう、文化庁指針を遵守します。 ※具体的な収蔵庫環境の設定については、収蔵する資料に合わせ設定します。
	収蔵庫前室	収蔵庫内の温湿度を一定に保つ役割や、カビや虫等の侵入を防ぐための緩衝空間として設けます。 ・収蔵庫に準じる保存環境を整備します。 ・大型の収蔵品を持ちながら通り抜けられる広さ、前室内に一次的な作業ができる面積を確保します。 ・備品等を収納するための棚等の設置も可能とします。
	資料閲覧室	博物館で収蔵している図書資料や古文書資料等を閲覧するために使用します。 ・資料、運用動線を考慮し、図書記録資料保管室と同室内に設定します。
	整理室	資料整理を行います。 ・資料に配慮した設備設計を行います。 ・資料リスト記録作成のため、撮影室の隣に設置します。 ・大型の資料の記録作業や調査を行うことも想定した運用を行います。
	図書記録資料保管室	図書記録資料の保管室として使用します。 ・資料に配慮した設備設計を行います。 ・フィルムの保管用に専用のキャビネットの設置を検討します。
	資料撮影室	・写真映像撮影が可能な部屋とします。 ・部屋には窓は作らず、外光を遮断した環境にします。
	燻蒸室	資料に寄生する害虫カビ類の駆除を行う部屋として整備します。 ・搬出入口の近くに独立した専用のスペースとします。 ・排気設備を備え、気密性に留意します。 ・建物の空調及び電気等の配管が通らないように考慮します。
	トラックヤード	収蔵品の搬入搬出を行うにあたり、建物内にトラックが入れるスペースを整備します。 ・博物館専用のトラックヤードとします。 ・搬入口は博物館の一般来館者用の出入り口とは離れた位置に設置します。 ・資料の搬入搬出の際に資料への負担が少ない空間として整備します。 ・トラックヤードの入口と、さらに荷解き室の間にはシャッターを設け資料搬出入時には開閉できる仕様とします。
	荷解き室	荷解き室はトラックヤードへ搬入搬出する収集品の荷解きを行う場です。
	一時保管室	燻蒸前の資料を保管するための一時保管室を用意します。
管理運営エリア	事務室	博物館職員の事務所です。 ・職員が活用、執務しやすい環境を整備します。
	教育普及準備室	教育普及準備室は指導主事の職員が、小中学校や社会教育施設との連携事業、博物館見学で使用する資料の準備や保管を行い、授業に必要な作業を行います。 ・机、椅子を整備します。 ・備品や道具を収納する棚を設置します。 ・授業などの道具の作成や、作業を行うスペースとします。
	機械室	・電気室及び空調機械室とし、施設の用途規模を勘案し、必要な天井高面積を確保します。

エリア区分	諸室	与件
		- 電気室は室内に水の侵入のないよう計画します。 - 空調機械室は騒音振動対策を十分に行います。 - 屋外設備機器置場は来館者や周辺からの視線に配慮して計画します。 - 伝承館部分の空調機器は文化財IPMの観点から屋外部分への設置も検討します。
	ほっしー号保管室	ほっしー☆Oyama号は移動式天体望遠鏡搭載車であり、稼働していないときの保管用として整備します。 - 車両と天文教室の備品類を収納できるスペースを確保します。 - 機器への充電設備を備えます。
	会議室	職員などの会議を行います。 - 椅子や机、会議に必要な機材を収納できるスペースを整備します。 - 換気が行いやすい構造とします。
	ゴミ庫	ごみ収集日までの一時的なごみ置き場。
伝承館	じゃがまいた伝承室	蛇作りや蛇頭作りの技術伝承、全体会議、じゃがまいた講習会、勉強会を行います。 長物や刃物等を使用する蛇作りの作業や、100人規模の全体会議が余裕をもってできるスペースを確保します。
	事務室	伝承館の運営職員の事務所として用意します。 - 椅子や机を配置します。 - 運営職員が使用することを想定した給湯、更衣スペース、トイレを整備します。
	倉庫	会議用の椅子や机を収納する倉庫と、蛇頭や道具が納められる倉庫を整備します。
	水場・荷解き室	じゃがまいた伝承館専用の荷解き室です。 - じゃがまいたのための蛇作りに必要な水場を配置します。 - 水場では縄や竹を水につける「あく抜き」作業等ができるよう考慮します。 2tトラックが車寄せでき、荷解きできる空間を確保します。
館外収蔵庫	収蔵庫	所蔵資料の保存に対応します。史資料の種別毎に適切に保存し、耐火性耐震性安全性を有する機能とします。 - 資料種別に応じて、2重壁構造にする等適切な温湿度管理を行います。 - 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。 - 電気設備と照明設備は資料保護やメンテナンス、環境負荷に配慮したものとします。 - 収蔵庫内に水漏れ等が発生しないために、給排水の配管が配置されないよう配慮します。 - 特殊消火設備を整えます。 - 収蔵資料にあわせ、必要な収蔵棚等を備えます。 - 収蔵庫の出入口は原則として1カ所とし、密閉性、耐火性に十分配慮します。 ※具体的な収蔵庫環境の設定については、収蔵する資料に合わせ設定します。
	収蔵庫前室	収蔵庫内の温湿度を一定に保つ役割や、カビや虫等の侵入を防ぐための緩衝空間として設けます。 - 収蔵庫に準じる保存環境を整備します。 - 大型の収蔵品を持ちながら通り抜けられる広さ、前室内に一次的な作業ができる面積を確保します。 - 備品等を収納するための棚等の設置も可能とします。
	図書記録資料保管室	図書記録資料の保管室として使用します。 書棚を配置します。
	トラックヤード	収蔵品の搬入搬出を行うにあたり、建物内にトラックが入れるスペースを整備します。 収蔵品搬出入専用のトラックヤードとします。

エリア区分	諸室	与件
		- 搬入口は博物館の一般来館者用の出入り口とは離れた位置に設置します。 - 資料の搬入搬出の際に資料への負担が少ない空間として整備します。 - トラックヤードの入口とさらに荷解き室の間にはシャッターを設け資料搬出入時には開閉できる仕様とします。
	荷解き室・整理室	荷解き室はトラックヤードへ搬入搬出する収集品の荷解きを行う場です。資料整理を行います。 - 資料に配慮した設備設計を行います。 - 大型の資料の記録作業や調査を行うことも想定した運用を行います。
	一時保管室	収蔵庫搬入前の資料を保管するための一時保管場所とします。
	事務室	博物館職員の事務所です。 職員用のトイレや資材置、事務スペースとして整備します。
	機械室	- 電気室及び空調機械室とし、施設の用途規模を勘案し、必要な天井高面積を確保します。 - 電気室は室内に水の侵入のないよう計画します。 - 空調機械室は騒音振動対策を十分に行います。

イ 外構の与件整理

新博物館施設計画の基本的な方針や条例に基づき、以下内容を外構の与件として設定します。

- 敷地の10%以上を緑地化します。
- 現博物館の駐車可能台数を基準に、駐車場を整備します。
- 駐車場は、一般来館者用・管理用・大型バスを整備し、駐輪場も別途整備します。
- 一般来館者、大型バスの駐車場は南側の道路に面した位置に入り口を設けます。
- じゃがまいたの材料となるマダケ・コケラを植栽します。
- 自然を感じるデザインを検討します。
- 周辺地域の賑わいを創出できるイベントが開催できるような外構設備を検討します。

ウ その他

- カフェやレストランの導入については、文化財IPMの観点や、民間企業等の参入意向、導入にかかるコストなどを踏まえて、検討します。

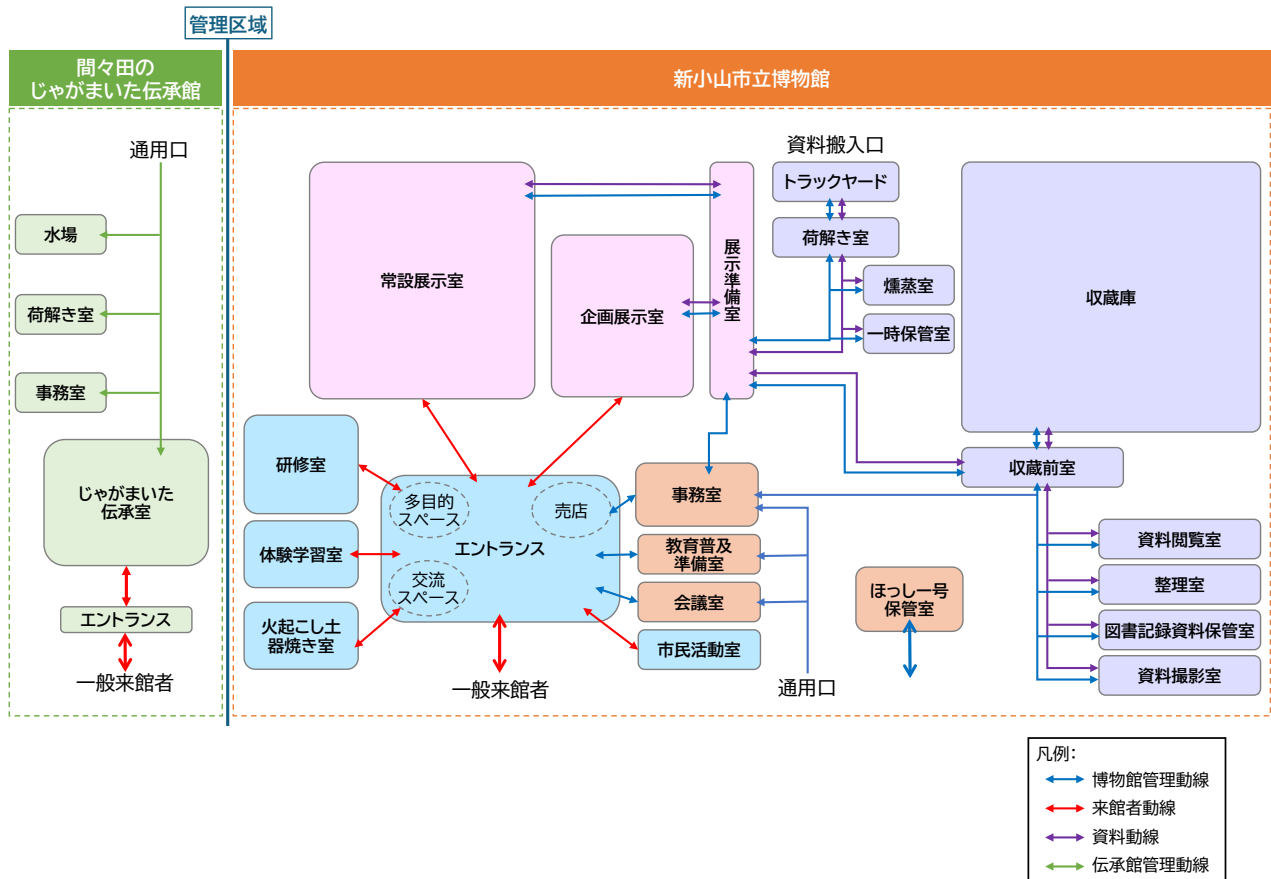
(2) 新博物館・伝承館、館外収蔵庫の諸室構成

ア 新博物館・伝承館の諸室構成

新博物館と伝承館の2つの施設を同敷地内に整備することから、相互の利用者や職員の動線を考慮し、必要諸室や機能の関係性を整理すると以下の構成図となります。

- ・文化財のセキュリティーや文化財IPMの観点から「新博物館」と「伝承館」で管理区域を分けることとします。
- ・史資料の安全面を考慮し、諸室を配置します。

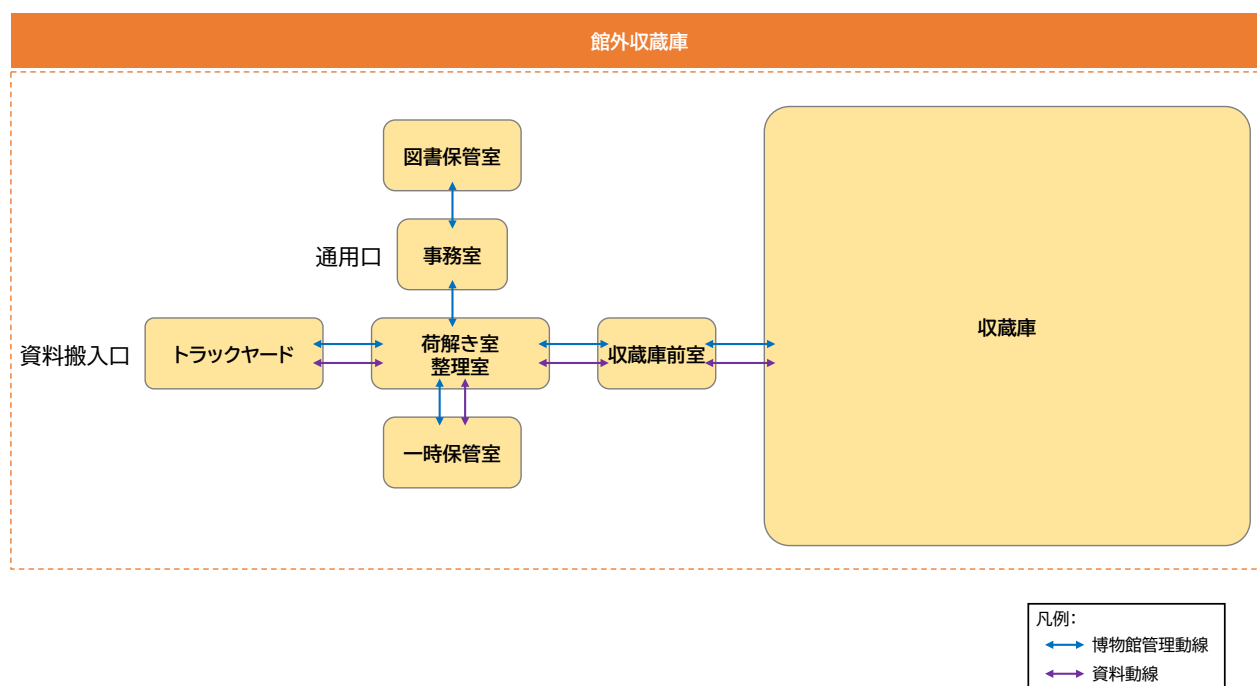
■諸室構成図



イ 館外収蔵庫の諸室構成

史資料の安全面を考慮し、効率的な諸室を配置します。

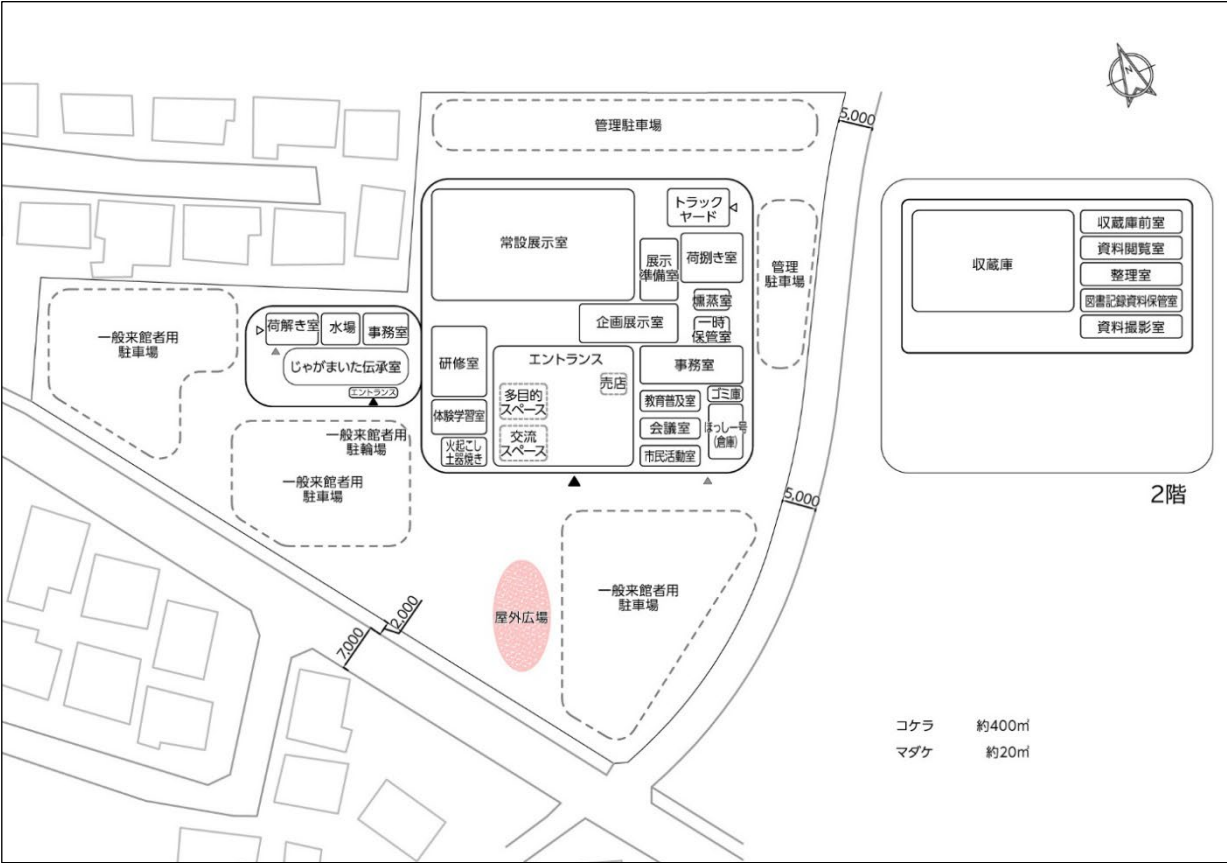
■諸室構成図



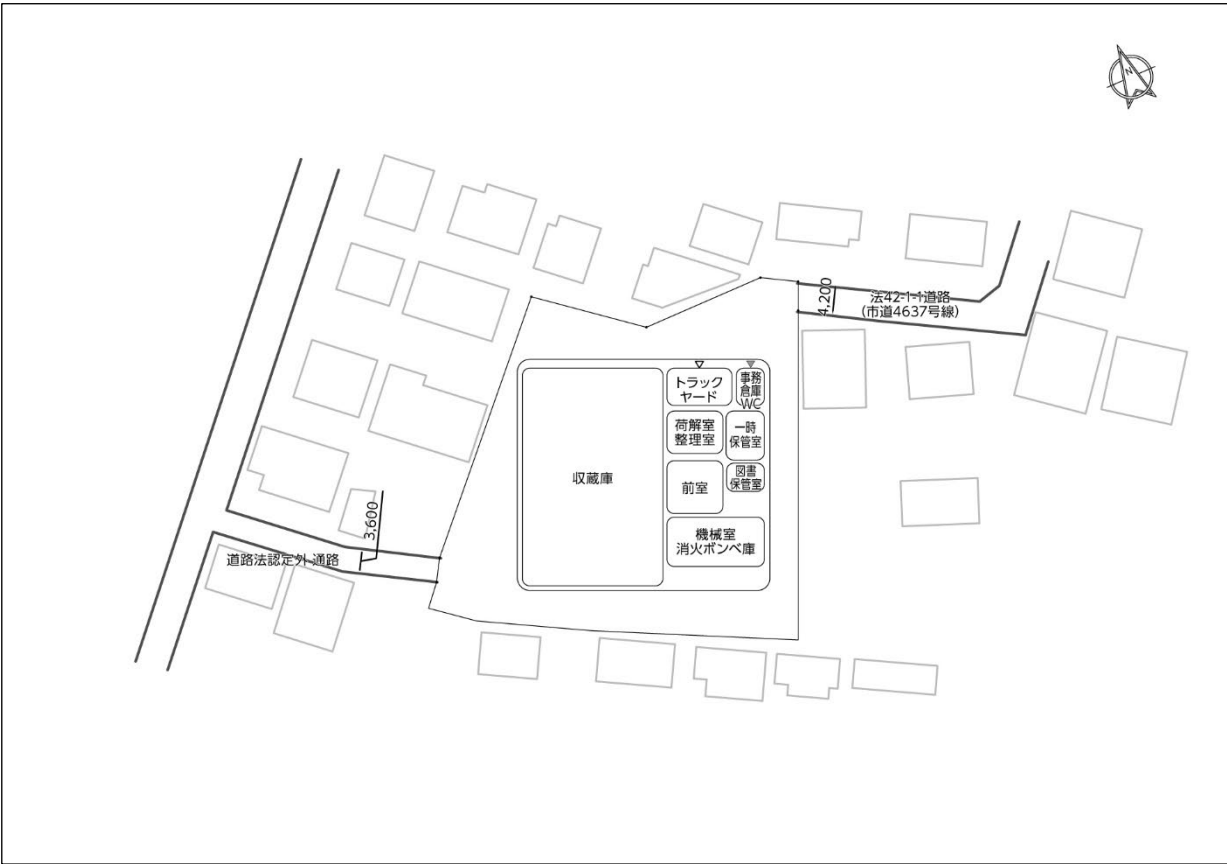
(3) 各諸室のボリューム

エリア区分	諸室名	面積(m ²)
展 示 エ リ ア	常設展示室、企画展示室、展示準備室 等	約750m ²
体 験 交 流 エ リ ア	エントランス、多目的スペース、交流スペース、体験学習室 研修室、市民活動室、火起こし土器焼き室 等	約600m ²
収 蔵 エ リ ア	収蔵庫、収蔵庫前室、資料閲覧室、整理室、図書記録保管室 資料撮影室、燻蒸室、荷解き室 等	約800m ²
管 理 運 営 エ リ ア	事務室、会議室、印刷室、教育普及準備室 清掃員控室、ほっしー号管理倉庫、機械室 等	約600m ²
伝 承 館	じゃがまいた伝承室、事務室、倉庫、水場・荷解き室 等	約250m ²
館 外 収 蔵 庫	収蔵庫、収蔵庫前室、図書保管室、荷解き室・整理室 等	約1,000m ²

■新博物館参考ゾーニング図



■館外収蔵庫参考ゾーニング図



第5章 管理運営計画

1. 基本方針

(1) 管理運営の基本方針

- ・新博物館は、効率的に施設を整備することを目的に伝承館と一体整備をおこないます。管理運営に関しても同様に効率的な運用ができるよう、検討していきます。
- ・新博物館には新分野として自然分野が設けられます。さらに、全国の博物館から国指定重要文化財を含む貴重な史資料を借用し、市民に魅力的な企画展を提供していくことを目指しています。
- ・新博物館の活動計画にもある基盤活動となる「収集保存」「調査研究」「展示発信」活動を円滑に行うための人員を確保し、組織体制を整えていきます。

(2) 開館形態

ア 開館時間

- ・現博物館の9時～17時を踏襲しつつ、検討します。

イ 休館日

- ・現博物館の月曜日(祝日の場合は除く)、祝日の翌日(その日が土曜日、日曜日、休日にあたる場合は除く)、第4金曜日、年末年始(12月29日から1月3日)、特別整理期間(年1回、10日以内)を踏襲しつつ、検討します。

(3) 利用料金

- ・利用料金や減免については、現博物館の制度を踏襲しつつ、他館料金や社会情勢などを考慮し、検討します。
- ・無料エリアを設け、市民の方に気軽に利用していただける施設をめざします。

(4) 主な業務

新博物館が担う主な業務は下記の通りです。管理運営方式と合わせ、円滑かつ効率的に運営される体制を整えていきます。

ア 施設管理部門

部門		主な業務
施設管理	施設管理	施設及び設備の維持管理
		日常の鍵等の管理
		日常の清掃
		日常の警備
	総務	館全般の掌握
		公印の管理
		博物館協議会
		業務全般の掌握
		備品の管理保管
		刊行物の管理発送及び頒布
		国県市関係機関との連携調整
		公用車の維持管理
		入館者の受付及び入館料の徴収
		館内の予算経理
		物品の出納及び保管
		文書の収受、発送及び保管
		統計、照会
		博物館資料取得基金の管理
		博物館施設の充実と周辺地域の整備
		その他館内一般庶務

イ 基盤活動及び未来の「つながり」を育む活動部門

部門		主な業務
基盤活動	収集保存	史資料の調査・収集保存
		博物館資料の寄贈、寄託
	調査研究	収集した史資料の調査研究の実施
		収集した史資料のデジタル化
		館報、解説書等出版物の刊行
		市民との既存標本や民俗資料等の整理作業
	展示発信	常設展示の管理、史資料替え等
		企画展示の企画実施
		学校教育プログラムに合わせた展示プログラムの管理、運用
		ホームページ、SNS等を活用した情報発信
未来のつながりを育む活動	教育普及活動	学校利用推進事業及び学校教育支援事業
		移動式天体望遠鏡搭載車に関する事業
		体験講座、講演会の企画、調整、実施
		博物館実習の受け入れ
		大学等高等教育機関との教育連携
		学校連携事業プログラムの企画、調整
		視聴覚教材の制作

部門		主な業務
	他機関連携	「おやま歴史文化ネットワーク」のための市内関係施設との調整
		市内他施設との体験活動、見学会の企画、調整、実施
		他博物館、社会教育機関との連携協力
		近隣の大学等研究機関との学術連携の調整、実施
	体験交流	市民の研究活動等への情報提供等サポート
		博物館友の会の活動サポート、調整
		ボランティア活動の活動サポート、調整
		小山市少年少女発明クラブの活動サポート、調整
		博物館まつり事業の実施

(5) 組織体制

新博物館では総合博物館として、考古や自然の分野も含めた調査研究活動や展示発信活動、他機関連携活動などをより強化していくために、人員体制の強化を図ります。

(6) 管理運営方式

民間活力導入可能性調査を進めており、その結果を受け今後適切な事業方式を検討します。

第6章 開館に向けて

1. 整備スケジュール

令和6(2024)年度に民間活力導入可能性調査を実施し、新博物館をより魅力的な施設とするための官民連携の在り方、そのための効果的・効率的な事業方式の検討を行いました。

調査の結果を受け、定量的評価、定性的評価の両面から検討を行い、最適な事業手法を決定します。各事業方式を採用した場合に想定されるスケジュールは以下の通りです。

■現博物館開館スケジュール

令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	令和11(2029)年度
開館		部分開館（学校対応・常設展等継続）			

■従来方式(指定管理者制度・一部指定管理を含む)

令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	令和11(2029)年度
基本計画					
民活調査					
	展示基本設計				
	建築基本設計				
		展示基実施設計	制作・工事		
		建築実施設計	建築工事		
					開業準備

開館、運営開始

■PFI方式(DBO方式を含む)

令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	令和11(2029)年度
基本計画					
民活調査					
	特定事業の選定				
		事業者募集			
			基本設計、実施設計、製作・工事		
					開業準備

開館、運営開始

別添資料

1. 新小山市立博物館整備検討懇話会 委員名簿

役職	選出区分	氏 名	役職等
	市議会議員	こばやし はなえ 小林 英恵	小山市議会議員副議長
	市議会議員	さとう ただひろ 佐藤 忠博	小山市議会議員
	市議会議員	たかはし さかえ 高橋 栄	小山市議会議員
会長	学識経験者 (民俗)	おがわ きよし 小川 聖	小山市文化財保護審議会会長
	学識経験者 (古墳)	こもり てつや 小森 哲也	日本考古学協会会員
	学識経験者 (中世)	ひしぬま かずのり 菱沼 一憲	小山市文化財保護審議会委員 國學院大學栃木短期大学教授
	学識経験者 (近世)	さかもと たつひこ 坂本 達彦	國學院大學栃木短期大学教授
	学識経験者 (近現代)	うちやま きょうこ 内山 京子	小山市文化財保護審議会委員 國學院大學栃木短期大学准教授
	学識経験者 (美術)	おおさわ けいこ 大澤 慶子	小山市文化財保護審議会委員 文星芸術大学教授
副会長	学識経験者 (民俗・博物館学)	うちやま だいすけ 内山 大介	淑徳大学地域創生学部教授
	学識経験者 (自然)	くりはら たかし 栗原 隆	栃木県立博物館学芸部自然課 主任研究員
	学識経験者 (文化観光学)	す が ただよし 須賀 忠芳	東洋大学国際観光学部教授
	その他関係団体を代表する者 (小山市立博物館協議会)	しんぼ まさひろ 眞保 昌弘	国土舘大学文学部教授 小山市立博物館協議会 委員
	その他関係団体を代表する者 (小山市立博物館友の会)	おおくぼ さちこ 大久保 幸子	小山市立博物館友の会会長
	その他関係団体を代表する者 (小山市校長会)	いなば さとし 稲葉 聖	小山市立間々田東小学校長
	その他関係団体を代表する者 (小山市おもいがわ商工会)	くりはら つとむ 栗原 勉	小山市おもいがわ商工会 理事
	その他関係団体を代表する者 (小山市自治会連合会)	もり えいいちろう 森 榮一郎	小山市自治会連合会間々田支部長
	その他関係団体を代表する者 (小山市社会教育委員)	ふくだ えみこ 福田 恵美子	小山市社会教育委員
	学識経験者 (自然)	あおき あきひこ 青木 章彦	特定非営利活動法人わたらせ未来基金理事長
	その他関係団体を代表する者 (間々田のじゃがまいた保存会)	のぐち しずお 野口 静男	間々田のじゃがまいた保存会事務局長

2. 新小山市立博物館整備についてのアンケート 設問一覧

【回答者属性】

Q1:年齢をおしえてください。(☑は1つ)

☐10代 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60代 ☐70代以上 ☐答えない

Q2:性別をおしえてください。(☑は1つ)

☐男性 ☐女性 ☐そのた ☐答えない

Q3:職業をおしえてください。

☐ 中学生・高校生	☐ 農林漁業・自営業・フリーランス	☐ 専業主婦・主夫
☐ 大学生・大学院生・専門学校生	☐ 会社員・団体職員・公務員 (役員・パート・臨時・派遣含む)	☐ 無職(定年後含む)
		☐ そのた

Q4:お住まいの地域をおしえてください。(☑は1つ)

☐市内 ☐市外(市町名:)

ア 小山市の文化資源に対する認知度、来訪経験

Q5:次のうち、知っているものを全て答えてください。(☑はいくつでも)

☐ 小山評定跡	☐ 須賀神社	☐ 鷲城跡／鷲神社
☐ 乙女不動原瓦窯跡	☐ 寺野東遺跡／おやま縄文まつりの広場	☐ 桑・蚕・繭・真綿かけ・糸つむぎのさと
☐ 小山御殿広場	☐ 祇園城跡／城山公園	☐ 中久喜城跡
☐ 渡良瀬遊水地	☐ 小川家住宅／小山市立車屋美術館	☐ 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館
☐ 小山政光・寒川尼像	☐ 天翁院	☐ 間々田八幡宮
☐ 摩利支天塚古墳、琵琶塚古墳／国史跡摩利支天塚・琵琶塚古墳資料館	☐ おやま本場結城紬 クラフト館	☐ 小山市文書館
☐ 乙女河岸跡		

Q6:次のうち、行ったことがあるものを全て答えてください。(☑はいくつでも)

※選択肢はQ5に同じ

イ 現博物館の利用経験、利用回数・頻度、同行者、交通手段、来訪目的

Q7:「現博物館」に行ったことがありますか？(☑は1つ)

☐ある【問8へ】 ☐ない【問14へ】

Q8:何回行ったことがありますか？(☑は1つ)

☐これまでに1回だけ ☐数年に1回 ☐毎年1～2回 ☐2～3カ月に1回 ☐毎月1回

Q9:だれと行くことが多いですか？(☑は1つ)

☐ひとり ☐家族 ☐友人 ☐学校 ☐職場や地域 ☐そのた(自由記述)()

Q10:どうやってきましたか？(☑は1つ)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ☐ 歩き・自転車 | ☐ 団体バス |
| ☐ 車・オートバイ | ☐ そのた(自由記述)() |
| ☐ 電車・おーバス(コミュニティバス) | |

Q11:なぜ「現博物館」に行きましたか？(☑は3つまで)

- | | | |
|---|------------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 常設展示を見るため | ☐ 子どもの学習のため | ☐ 調べものをするため |
| ☐ ボランティアに参加するため | ☐ 学校の授業で | ☐ 観光のついで |
| ☐ 企画展を見るため | ☐ 友の会の活動のため | ☐ そのた(自由記述)() |
| ☐ 家族との時間を過ごすため | | |
| ☐ 講座・講演会・イベントに参加するため | | |

ウ 現博物館の展示・活動内容の重要度

Q12:「現博物館」の展示で、重要なものはどれですか？(☑は1つまで)

- | | |
|---|--|
| ☐ 小山の歴史の展示 | ☐ 昆虫や鉱物、化石、渡良瀬遊水地などの自然を紹介する展示 |
| ☐ 農家の仕事や暮らし、特産品や産業の展示 | ☐ 見て、さわって、感じる体験コーナー |
| ☐ 博物館の収蔵品を紹介するコレクション展示 | ☐ そのた(自由記述)() |

Q13:「現博物館」の活動で、重要なものはどれですか？(☑は1つまで)

- | | |
|--|---|
| ☐ 天文イベント(天体観望会や太陽観測会) | ☐ 学校団体の受入れや学校教育の支援 |
| ☐ 楽しく体験しながら学習できるイベントや講座 | ☐ そのた(自由記述)() |

エ 現博物館を利用していない理由

Q14:「現博物館」に行かないのはなぜですか？(☑はいくつでも)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ☐ 小山市立博物館を知らない | ☐ 家族で楽しめる場所がない |
| ☐ 時間がない | ☐ 場所が遠い、不便 |
| ☐ 小山市の歴史に興味がない | ☐ 入館料があるから |
| ☐ 見たい展示や講座がない | ☐ そのた(自由記述)() |
| ☐ どんな展示や講座があるかわからない | |

オ 新博物館で重要な役割、知りたい情報、見たい展示

Q15:「新博物館」の役割として、どれが重要ですか？(☑は3つまで)

- | | |
|---|---|
| ☐ 収集保存:小山の考古、歴史、民俗、自然資料の収集と保存 | ☐ デジタルアーカイブ整備:収集資料のデジタル化と公開 |
| ☐ 調査研究:小山の考古、歴史、民俗、自然に関する調査や研究 | ☐ 小・中学校教育支援:学校利用の受入れ、出前授業の実施など |
| ☐ 展示発信:小山の特徴や魅力を伝える常設展や企画展 | ☐ 市民による体験交流活動支援:市民の学習活動への情報提供、活動ばしょの提供 |
| ☐ 教育普及:人々の知的好奇心に応える講座や講演会、イベント | ☐ 小山の民俗文化の継承:間々田のじゃがまいた伝承活動の支援 |
| ☐ 他機関との連携:市内文化施設との連携による見学ルートづくりや見学会の実施 | ☐ そのた(自由記述)() |

Q16:「新博物館」には、どんな情報があるとよいですか？(☑は3つまで)

- | | |
|--|--|
| ☐ 小山の歴史(小山市の通史) | ☐ 現在の小山市の自然やまち・生活の情報 |
| ☐ 小山の自然と環境(川や地形、渡良瀬遊水地の動物や植物など) | ☐ 小山市内の観光に利用できるまち歩きの手帳や見どころ |
| ☐ 小山の民俗文化(生活の行事・まつり、産業など) | ☐ 小山市立博物館の最新の研究成果 |
| | ☐ その他(自由記述)() |

Q17:「新博物館」には、どんな展示があるとよいですか？(☑は3つまで)

- | | |
|--|---|
| ☐ 歴史の資料(実物・レプリカ)の展示 | ☐ 自分でつくったり、描いたりできる展示 |
| ☐ 動物・植物の標本展示 | ☐ 人(語り部や学芸員など)による解説が聞ける展示 |
| ☐ 模型やジオラマをもちいた展示 | ☐ 収蔵庫や収蔵品の整理作業など、博物館の「裏側」が見られる展示 |
| ☐ 五感で体験できる展示(さわったり、聞いたりできる) | ☐ 子どもたちが遊びながら学べる展示 |
| ☐ 最新のデジタル技術を活用した体験展示 | ☐ その他(自由記述)() |
| ☐ 大型映像シアターによる映像展示 | |

カ 新博物館でやってみたい活動

Q18:「新博物館」でやってみたいことはありますか？(☑は1つ)

- | | |
|---|---|
| ☐ 小山の歴史・文化の研究 | ☐ 小山の歴史・文化スポットをつなぐ活動 |
| ☐ 博物館運営のサポート(ボランティア) | ☐ 小山の自然環境を観察し守る活動 |
| ☐ 小山の自然環境の研究 | ☐ 特になし |
| ☐ 博物館学芸員とともに調べる調査研究 | ☐ その他(自由記述)() |

キ 新博物館にあったらよいと思う場所・施設

Q19:「新博物館」に特にあったらよいと思うものは何ですか？(☑は1つ)

- | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 学習するばしょ | ☐ ライブラリーコーナー | ☐ ギャラリー |
| ☐ 飲食するばしょ | ☐ 子どもが遊べるばしょ | ☐ 多言語案内 |
| ☐ ミュージアムショップ | ☐ その他(自由記述)() | |
| ☐ 催し物ができるばしょ | | |

Q20:そのほか「新博物館」の整備について、ご意見があればご自由にお書きください。

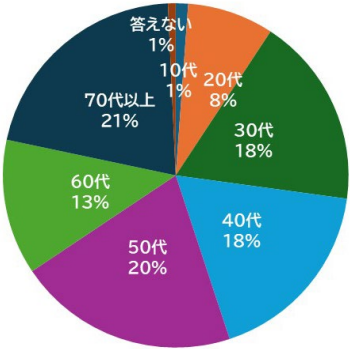
3. 新小山市立博物館整備についてのアンケート 結果概要

(1) 回答者属性

ア 年齢

10代を除き各年代ともに構成比15～20%となっている。
10代は回答者数が8人と少なく、集計結果を検討する上で留意が必要である。

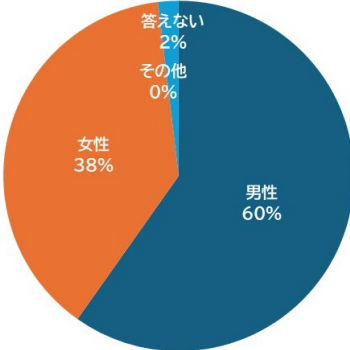
全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	答えない
692	8	56	124	123	143	88	145	5
100.0%	1.2%	8.1%	17.9%	17.8%	20.7%	12.7%	21.0%	0.7%



イ 性別

男性60%、女性38%で、男性がやや多い回答者の構成となっている。

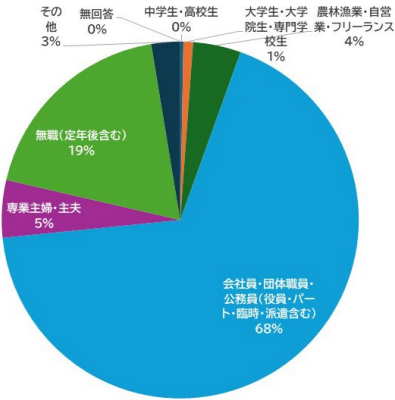
全体	男性	女性	その他	答えない	無回答
692	412	264	0	13	3
100.0%	59.5%	38.2%	0.0%	1.9%	0.4%



ウ 職業

回答者の68% を会社員・団体職員・公務員が占めている。
中学生・高校生、大学生・大学院生・専門学校生は回答者数がそれぞれ2人、6人と少なく、属性別集計では除外して考える必要がある。

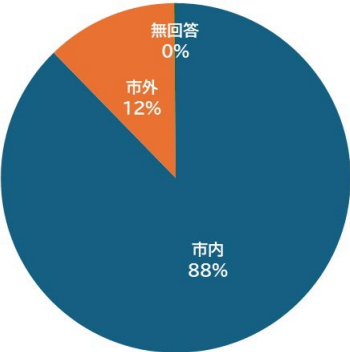
全体	中学生・高校生	大学生・大学院生・専門学校生	農林漁業・自営業・フリーランス	会社員・団体職員・公務員(役員・パート・臨時・派遣含む)	専業主婦・主夫	無職(定年後含む)	その他	無回答
692	2	6	30	470	36	130	18	0
100.0%	0.3%	0.9%	4.3%	67.9%	5.2%	18.8%	2.6%	0.0%



エ 居住地

答者の88%が市内居住者である。

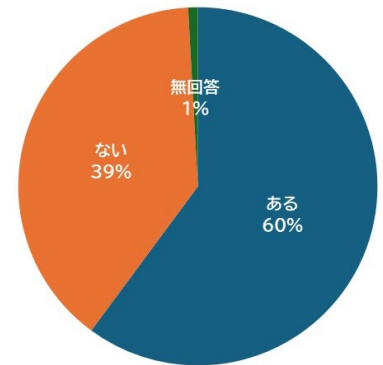
全体	市内	市外	無回答
692	607	84	1
100.0%	87.7%	12.1%	0.1%



オ 現博物館来訪経験

現博物館に来訪者経験のある回答者は60%となっている。

全体	ある	ない	無回答
692	416	270	6
100.0%	60.1%	39.0%	0.9%



(2) 集計結果

ア 小山市の文化資源に対する認知度、来訪経験

- ・ 須賀神社、渡良瀬遊水地、祇園城跡／城山公園は認知度が90%前後、来訪経験が80%～90%とともに高い。
- ・ その他の文化資源については、認知度は40～60%あるものの、来訪経験はその半分程度となっており、「知ってはいるが、行ったことがない」人が多い状況となっている。
- ・ 文化資源に対する認知度、来訪経験は若年層で低くなっている。

イ 現博物館の利用経験、利用回数・頻度、同行者、交通手段、来訪目的

- ・ 「これまでに1回」から「数年に1回」利用する人が全体の約75%。リピーターも約25%存在。
- ・ 若年層は「学校」、30代以上は「家族」での来訪が多い。
- ・ 交通手段は「車・オートバイ」が全体の78.4%で、ほとんどが車で来場。
- ・ 来訪目的は「企画展を見るため」が55.5%で最も多く、次いで「常設展示を見るため」の35.3%。展示目的が多い。「企画展を見るため」はすべての年齢層で高い。

ウ 現博物館の展示・活動内容の重要度

- ・ 「小山の歴史の展示」「コレクションの展示」を重要とする回答比率が高い。「小山の歴史の展示」は年齢が高いほど回答比率が高い傾向にある。
- ・ 20～30代では「見て、さわって感じる体験コーナー」の回答比率も高い。
- ・ 重要な活動では、「楽しく体験しながら学習できるイベントや講座」が最も多く、次いで「学校団体の受入れや学校教育の支援」となっている。

エ 現博物館を利用していない理由

- ・ 「小山市立博物館を知らない」「どんな展示があるかわからない」という情報不足に関する回答比率がすべての属性で高い。次いで「時間がない」「場所が遠い、不便」、「見たい展示や講座がない」。

オ 新博物館で重要な役割、知りたい情報、見たい展示

- ・ 重要な役割では、「収集保存」と「展示発信」が回答比率50%程度で最も多く、次いで「調査研究」「教育普及」が同35%前後。「小・中学校教育の支援」が約30%。この傾向は、現博物館に来訪経験のある回答者だけでなく、現博物館に来訪したことが「ない」回答者も同様。
- ・ 「教育普及」は20～30代、「小・中学校教育の支援」は40代の回答比率が比較的高い。
- ・ 知りたい情報では、「小山の歴史」が最も多く、次いで「小山の自然と環境」、「小山の民俗文化」。現博物館来訪経験の「ない」回答者や若年層では「まち歩きルートや見どころ」の回答比率も高い。

- ・ 見たい展示では、「歴史の資料の展示」が最も多いが、30～40代や現博物館に来訪経験のない回答者では「五感で体験できる展示」や「子どもたちが遊びながら学べる展示」の回答比率も高い。

カ 新博物館でやってみたい活動

- ・ 「小山の歴史文化の研究」が最も多いが、40～50代では「小山の歴史・文化スポットをつなぐ活動」、20～30代では「小山の自然環境を観察し、守る活動」など、より積極的に地域と関わる活動への回答比率が比較的高い。

キ 新博物館にあったらよいと思う場所・施設

- ・ 「子どもと遊べるばしょ」の回答比率が最も高く、特に20～40代で高い。また現博物館来訪経験の「ない」回答者で回答比率が高い。

新小山市立博物館整備基本計画

令和7(2025)年3月
小山市・小山市教育委員会